



秋派遣留学生311人に合格証書

26か国・地域132大学へ

今年度の秋派遣留学生合格証書授与式が6月13日、中宮キャンパス・マルチメディアホールであり、谷本義高大同学長は「今日がゴールではなく、出発点だ。留学生は国を代表しているという自覚を持ち、留学中に会った人との繋がりを大切にしよう」と呼びかけた。

式では各プログラム代表への合格証書授与、学長式辞に続いて山本甫国際交流部長が「留学によって違う物の見方があることを感じ取ってほしい」と激励のあいさつ、派遣生の予備教育を担当した教員を代表し、ポール・スコット教授が祝辞を述べた。

最後に派遣生を代表して外国語学部英米語学科、久保舞さん(交換留学)が「フランスでビジネスマネジメントとファッションの知識を深めたい」、同、貞光裕二君(2か国留学)が「1年目のアメリカで英語を母語としない人への教授法、2年目のフィンランドではいじめや不登校にどう対処しているかなどを学びたい」と決意を表明した。

留学プログラム別では学位17人、2か国・2カ年12人、交換172人、推薦

卒業生の皆様へ

同窓会に参加しよう

11月22日に第1回総会

関西外国語大学では、現在、同窓会設立の準備を進めています。今年11月22日(日)には、第1回同窓会総会を開催する予定です。同窓生の皆様には、ぜひ、登録をお願いいたします。本学ホームページのトップページにある「関西外大同窓会準備室」のボタンをクリックし、登録フォームに従って氏名(旧姓)、卒業年次、住所、勤務先等を記入してください。

18人、英語/レギュラー57人、英語25人、日本語インターン7人、中国インターンシップ(日本語)3人。留学先は、26か国・地域132大学だが、新型インフルエンザが流行したメキシコへ派遣が内定していた4人(うち1人は2カ年留学の2年目)は米、アルゼンチン、スペインの大学に変更された。

学生支援プログラムに選定

文科省「学生支援推進プログラム」の選定が7月にあり、短大部の「短大・企業・学生の三位一体による支援システムの構築」が入った。「大学推進教育プログラム」の選定は8月。(詳細次号)

授業評価・大学の決算予算

(10面〜16面)

万代池

英語表現700万語、英語の用例70万文を記憶できたら、英語をやすやすと使えるだろうか? 最新の機械翻訳(自動翻訳)システムには、大量の言語情報が蓄積されている。そのアイデアは古く、17世紀にさかのぼるが、実際にシステム開発に必要な技術が誕生したのは1930年代のことである。60年代後半には、科学・技術論文の露英翻訳や飛行機操縦マニュアルの英越翻訳などの非常に限定的な利用であったが、実用システムが開発されるようになった。▲90年代になると、コンピュータの処理能力が向上し、またコーパスをはじめとする言語資源が整備され、機械翻訳システムはさまざまな言語や文体を扱えるようになった。

外国語学部准教授 小谷 克則

た。現在では、コンピュータソフトやインターネット上のツールとして容易に利用できる。この数十年間で翻訳精度は飛躍的に向上したが、いまだに「翻訳支援システム」と呼ばれるように、残念ながら及第点には達していない。▲これまでの研究によると、機械翻訳システムの翻訳精度を向上させるには、システム利用者の「ちょっとした工夫」が効果的なのだ。例えば、いかに機械翻訳システムが処理しやすい入力文を作成するかといった工夫である。翻訳と第二言語(外国語)の運用は異なるが、単語や文法などの言語情報に、ちょっとした工夫を加えることが第二言語の運用にも効果的なものかもしれない。

Campus Calendar
キャンパスカレンダー

July	7月25日(土)	オープンキャンパス
	7月26日(日)	オープンキャンパス
	7月29日(水)	春学期授業終了
	7月30日(木)~8月5日(水)	春学期末試験(中宮)
August	8月1日(土)~8月5日(水)	春学期末試験(穂谷)
	8月29日(土)	オープンキャンパス(穂谷)
September	9月3日(木)	留学生別科入学式
	9月19日(土)	学位記授与式(9月卒業式)
	9月19日(土)	大学院9月入学式
	9月19日(土)	3年次編入学試験(9月選考)
	9月20日(日)	オープンキャンパス
	9月25日(金)	秋学期授業開始
October	9月25日(金)、26日(土)	大学院入試(9月選考)
	10月10日(土)	保護者就職懇談会
	10月18日(日)	特別入試
	10月30日(金)、31日(土)	穂谷祭

中宮キャンパス(大学院・大学・短期大学部)
〒573-1001 大阪府枚方市中宮東之町16-1
TEL. 072(805)2801

穂谷キャンパス(大学)
〒573-0195 大阪府枚方市穂谷1丁目10-1
TEL. 072(858)0021

関西外国語大学	大学院	外国語学研究所	英語学専攻博士課程前・後期	関西外国語大学短期大学部	英米語学科
	外国語学部	英米語学科	言語文化専攻博士課程前・後期		
	留学生別科	スペイン語学科			
	国際言語学部	国際言語コミュニケーション学科			
	中国交流センター				

関西外大の最新ニュースはホームページにも掲載しています
<http://www.kansai-gaidai.ac.jp/>

小学校での英語授業に対応

中宮で指導者養成研修を実施

2年後に導入される小学校での英語授業に対応する本学・教職英語教育センターの「小学校英語教育指導者養成研修」が中宮学舎で、5月30日から6月27日まで、毎週土曜日の計5回実施され、修了者に本学の「修了証」が手渡された。

また、修了者を対象(希望者24人)に7月4日、一次試験(筆記)を実施。合格者9人が7月18日の二次試験(模擬授業)に挑む。合格者に本学から英語教育の「指導者認定書」を交付する。



研修には、大阪府内の小、中学校教員、教育委員会・教育センターの指導主事、教員を目指す本学の学部生計34人が参加した。

初日は、同センターの網倉尚武所長(外国語学部教授)が「私どもの大学は、英語教育の指導者を養成するノウハウを持っていきます。この機会に英語力、指導力を高め、研修を果のものにしてください」とあいさつ。期間中、外国語学部の松宮新吾教授とS・シノール准教授が講師を務めた。

参加者は、英語の歌に合わせて、リズムをとりながら英語を身体で覚えた。松宮教授が独自に開発した教材で、小学校現場に即応した英語の指導法を学んだ。写真。

「子どもにどのように教えたらいかが、不安でしたが、少し自信がつかました」と参加者は、研修に手応えを感じていた。

「クセックACT」公演に 学生や市民ら250人

小道具の演出が光る



恒例の劇団「クセックACT」公演が6月17日、中宮学舎の谷本記念講堂であった。出し物はスペインの劇作家ロペ・デ・ベガ(1562~1635)の原作をスペイン語学科の田尻陽一教授が翻訳・脚色した「フエンテ・オペーナ」。本学の公開講座(スペイン大使館後援)として行われ、学生、教職員や市民ら約250人が舞台を楽しんだ。5月20日に上演の予定だったが、新型コロナウイルスのため延期となっていた。

上演作品は、16世紀後半から17世紀初頭のスペインを表現した典型的なバロック劇。田舎の村で起きた領主と住民との葛藤などをダイナミックに演じた。写真。劇団結成30周年記念として上演され、7月にはスペイン公演を行う。17、18日にアルマゲロ国際古典演劇祭で上演。21日にはオルメド古典演劇祭に招待されている。

観客アンケートでは、「このような表現術があることを新たに認識した」「(76歳男性)、「意表を突く幕開けから引き込まれた」「(60歳女性)など、市民の反応は上々。また、縄や風船などの小道具も関心をひき、「意味を考えながら見た」「(29歳男性)、「少ない小道具での演出、特に縄がよかった」「(36歳男性)との回答も。一方、本学4年の女子学生は「一つで役を作りわけするなど、素敵だった」。別の女子学生は「芝居の迫力に圧倒された。戸板のドミノ倒しがすごかった」と回答し、学生からも率直な感想が寄せられた。

「メディア英語」の学生に講演

NHK前 欧州総局長 特派員のノウハウ語る 穂谷

国際言語学部に今春開設された国際メディア英語コミュニケーションコースで6月27日、学生対象の講演会があり、NHK前ヨーロッパ総局長の二階宗人氏が「国際報道の世界とその現場」の演題で、海外特派員の仕事について学プラントを売り込む▽10/12 ラテンアメリカの環境問題▽10/19 ラテンアメリカでビジネスをする▽10/26 日伯連携による地球規模課題への対応 国際協力の最前線▽11/2 アルゼンチンを理解する▽11/9 ベルギー日本大使館公邸人質事件と危機管理▽11/16 コロンビアの現状▽11/30 ペネズエラは何をめざすのか

本学大学院の院生研究会はこのほど、研究論集「FONS LINGUAE 31」を発行した。院生らの研究論文など3編を掲載している。

掲載論文は英語学専攻博士課程後期3年、片岡宏仁さんの「PノテQ」構文における志向的解釈と非志的解釈予

英語の変化と方向性示唆 国文研例会で英国の名誉教授 国際文化研究所(IRI)の第115回例会が6月2日、中宮学舎で開かれ、英国・エディンバラ大学のジム・ミラー名誉教授が「Spoken English and ongoing change in English grammar」と題して講演した。本学の教員や院生ら約30人が聴講した。

豊富な事例に基づいた講演は英語の変化とその速度、方向性を示唆するもので、興味を大いにかきたてられる内容だった。(外国語学部准教授・山田陽子)

中国人留学生ら31人を サポートする学生募集 穂谷学舎の中国交流センターは、秋学期(9月)からやってくる中国人留学生30人と中国語教員インターンシップ生1人の計31人をサポートする学生を募集している。

具体的には、関西国際空港への出迎え(9月10日~16日ごろ)に始まり、学習面や日常生活での手助け、観光名所への案内、悩みの相談など、充実した留学生活を送ってもらえるようサポートする。

国際言語学部の学生が対象で、中国語コミュニケーションコース以外の学生も可。留学生と交流したい、中国語を話す機会を増やしたいと思っている学生は、7月下旬までに学務課へ。

目玉は「大使の授業」

ラテン リレー 講義始まる

今年度から 公開講座に

「大使の授業」は春学期中の7月6日、トップを切って駐日メキシコ大使が講義した。コロンビア大使は11月16日、ペ

とテーマは次の通り。 9/28 ラテンアメリカの音楽と文化▽10/5 ラテンアメリカに石油化

眼思考の旅▽12/14 ブラジル経済を理解する▽12/21 ラテンアメリカを理解する▽1/18 メキシコの近代史

二階氏は1974年にNHKに入局し、ロンドン、パリ、ローマなどで特派員を経験した。講演では81年のローマ法皇暗殺未遂事件をはじめ、取材した事件のVTRを映し出しながら「テレビの場合、記事だけでなく、カメラ位置の確保も大切だ」と述べ、求められる特派員像として「外国語は英語を基本に、もう1言語に通じていること。ボディランゲージも重要だ。記者の原点はあらゆる出来事に対する好奇心であり、派遣される国の歴史や文化、社会にも関心を待たねばならない」と強調した。

学生部から

学生マンションへの 不法侵入に注意を

- 最近、学生マンションへの不法侵入や痴漢、盗難などが増えていることから学生部は、以下の点に注意するよう呼びかけている。
- 肌を大胆に露出する服装での外出は避ける
- 女性の1人暮らしだと分かるような洗濯物(下着など)をベランダに干さない
- 就寝時は、絶対に窓を開けない
- 夏休み期間中は大半の学生が帰省し、マンションが閑散となるため、戸締まりと窓の開閉には特に注意する

学生マンシオンへの 不法侵入に注意を

- アルバイトなどで帰宅が深夜になる時は、極力タクシーを利用する

歌手の松田さん 司会、通訳としても活躍

本学のOG2人が理事長らと歓談

起業し不動産会社の社長に 阿江さん

シンガーソングライター、松田陽子さん(左)と不動産会社経営、阿江九美子さん(右)の本学OG2人が6月15日、中宮学舎を訪れ、谷本榮子理事長らと歓談した。松田さんの活躍ぶりや阿江さんのビジネス談義をはじめ、話題は11月に予定されている本学のホームカミングデーなどに及び、盛り上がった。

松田さんはスペイン語学科卒業後、歌手になり芸能事務所に所属。その後、結婚・出産、がん、うつ病などさまざまな経験をし、命や平和について考えるようになった。現在は歌のほか司会や通訳としても活動。難民問題に関心があり、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)のキャンペーンなどに協力している。英米語学科から本学大学院に進学し修士号



を取得した阿江さんはいったん、私立大学でビジネス英会話を教えたが、夢だった起業を実現するために独立。米実業家の影響を受けて不動産業を始めた。現在は新大阪駅近くに社屋を構える「ライフイノベーション」の社長として奮闘している。2人は知り合って約1年半。本学の同窓生で境遇が似ていることから意気投合したという。

「キャンパスがきれいになっていてびっくり。でも、家庭的な雰囲気が変わってないのがうれしい。これから大学の役に立ちたい」と話す2人に、谷本理事長は「女性の卒業生が社会で活躍されているのは、後輩にとって非常に心強い。経験談を話していただく機会を設けたいので、ぜひ協力して下さい」と答えていた。



帰国留学生の話に熱心に聞く高校生

高校生ら550人、キャンパスライフを体験

今年度の第2回オープンキャンパスが、さわやかに晴れた初夏の6月7日、中宮キャンパスをメイン会場にして開かれた。中宮文化博覧会と同時開催で、高校生や保護者ら約550人は、谷本記念講堂でのオープニングのあと、キャンパス内で店開きした模擬店を回って舌鼓を打ったり、各クラブの展示や発表会を見学していた。

午前11時からのオープニングでは、本学の紹介ビデオ「GO FOR IT!」の上映の後、入試部が2010年度入試概要を説明、前年度との変更点について、11月の公募制推薦入試と2月の短大部を除く一般入試前日程で地方入試(名古屋、広島、福岡)を実施すること、「入学時奨学金制度」を導入したことの2点を明らかにした。続いて外国語学部英米語学科4年の梅田由香理さんが、カナダ留学で「日本語を使わず、英語だけで過ごす」ような心がけたことなど学生生活での体験を話し、「目標を持つことが大切。そうすれば目標に向かって前進することができる」と高校生らにメッセージ。最後にチャリティー部パイレーツが躍動感あふれるパフォーマンスで締めくくった。



学生生活について話す文化会のクラブ代表

午後からは、ネイティブ教員らによる体験授業や留学制度などの説明会、長期留学から帰国した外大生との懇談があった。穂谷キャンパスへは午後1時から無料バスが運行された。

同時開催の文化博覧会では文化会のクラブなど30団体が日ごろの活動成果を披露、フラスコ部「アンダハレオ」などの会場には、多くの観客が詰めかけていた。

中宮 第2回オープンキャンパス 文化博覧会と同時開催

穂谷では本年度初の単独開催

学生自作のDVDで魅力紹介

穂谷学舎が単独で開く今年度初のオープンキャンパスが6月21日にあり、国際言語学部への進学を希望する高校生や保護者らが参加した。穂谷学舎のオープンキャンパスは学生が主

年度から始まった。オープニングは午後1時。文化系クラブ所属の学生が自作のDVDで穂谷学舎の魅力を紹介、「里山にあるキャンパスは自然が豊か。先生方と学生の距離もより近く、静かで勉強しやすい」と話していた。

中宮学舎と合同の次回オープンキャンパスは7月25日(土)と翌26日(日)で、いずれも午前11時から。両日とも、穂谷学舎へは午後から無料バスが運行される。

体になって開催しており、学生自作のDVDも登場。和やかな雰囲気の中で緑の美しいキャンパスツアーなどを楽しんだ。

穂谷単独のオープンキャンパスは昨

鳥取から高速バスで来たという高校3年の女子生徒2人は「親しみが持てました。将来、中国に留学したいので、中国語コミュニケーションコースをめざします」と話していた。

穂谷学舎単独のオープンキャンパスは8月29日(土)にも午後1時から開かれる。こちらは穂谷学舎学務課(072-858-0021)へ事前申し込みが必要。

PICK UP!!

FMひらかたの新DJ決まる

FMひらかた(77.9MHz)の人気番組で本学学生が担当している「キャンパススピート」のDJが、6月19日からFBS放送局の外国語学部英米語学科1年、橘ひかりさん(写真左)と同、村上由樹さん(写真右)に交代した。

この番組は本学が提供。放送時間は毎週金曜日午後10時半から10分間、学内のイベントや地域の話題をビートルズの曲とともに英語で紹介している。翌土曜日午前零時から再放送。

橘さんは、「ビートルズの魅力をより多くの人に届けたい。是非聴いてみてください」と話している。来年6月まで担当する。



村上さんは「素敵な曲を精いっぱいお届けしたい」と話している。来年6月まで担当する。

クラブ離れ進み、公認サークル増える

今年度の加入状況とまとまる

中宮・学生部と穂谷・学務課は平成21年度のクラブ、公認サークルの加入状況をまとめた。中宮(6月7日現在)は3377人、穂谷(5月30日現在)は855人。両学舎で加入している学生は4232人で前年度に比べ131人の増。中宮の公認サークルが194人増え2091人に。半面、体育会、文化会、独立2団体は減少した。年々ク

和子(主将)はDIVISION1(自由演技)で6位(昨年2位)に終わった。しかし、規定演技と合わせた総合得点は3位となり、8月末に東京・国立代々木競技場で行われる日本選手権大会出場への切符を手にした。また、4人で行うパートナーダンス演技部門への出場も決めた。

今春入部の新入生対象に IGCがスピーチコンテスト

今春入部の新入生を対象にした通訳ガイドクラブ(I.G.C)の「ウエルカムスピーチコンテスト」が6月21日、中宮学舎で開かれ、入部間もない部員が素晴らしいスピーチを披露した。コンテストには19人が参加。2教室に分かれ、自らが作り、構成した原稿を暗記して発表した。新入生は、この日まで先輩の指導を受けながら、授業の合間や遅くまで残って練習、その成果を十二分に発揮し、全員が最後までやり遂げた。

入賞者は次の通り(敬称略)。

▽教室11優勝、英米語学科、佐々木愛子②ス페인語学科、新見亜貴

③短大部英米語学科、菊池優子▽教室211優勝、英米語学科、藤岡妙②同、徳森亜沙子③ス페인語学科、隠地沙保(通訳ガイドクラブ部長、磯部俊美)



これまで文化会の本部預かりだった「落語笑会」と「海外学生交流研究会」に新入部員があり、準クラブとして復活。落語笑会に林原文子外国語学部教授、海外学生交流研究会に学生部の安永吉一課長が決まった。

また、アーチエリー部に、澤田治美外国語学部教授が入った。

第18回関西チアリーディング選手権大会兼日本選手権地区予選が6月21日、大阪府立体育館で行われ、本学のチアリーダー部「パイレーツ」(上田紗

ひと燦

さんさん

々々

体育会・文化会の群像

5

異彩を放つクラブがある。穂谷学舎の文化会に所属する「イベント系投資部」。名前も風変わりだが、活動もユニークだ。株式投資を研究したり、大阪地裁で公判を傍聴したり。自然の豊かな「里山研究」にも取り組み、ここ数年、穂谷学舎のオープンキャンパスに欠かせぬ存在に成長した。穂谷学舎には、関西では3大学にしかないセパタクロ1同好会も。穂谷の群像にスポットを当てた。(文中敬称略)



小田 雄大

◆「イベント系投資部」の元部長で、文化会会長の小田雄大(国際言語学部4年)の出番が、こしもやってきた。

6月21日の日曜日。穂谷学舎単独のオープンキャンパスだ。2000人は優に入る教室で、小田はパソコンを操りながら、DVDに取り込んだビデオ映像やスライドをスクリーンに映し出し、「穂谷の魅力」をアピールした。

小田はひと一倍、面白がり、よくしゃべる。でも、この日は真面目路線。「穂谷キャンパスは静かで、勉強にはもってこいです」「先生方との距離も近く、お勧めの学部です」。もっぱら、キャンパスのPR役にいそしんだ。

◆「株」の勉強からスタート



穂谷祭を楽しむ「(株)サークル」の面々=06年11月

同部の前身は、小田や、前部長の藤本基紀(同4年)らが2006年秋に立ち上げた「株サークル」。ビジネスの世界に心があつた。小田は言う。

「ほくらが入学したのは、あのホリエモンが摘発された直後。村上ファンド事件も起きた。だから、株式の仕組みを勉強してみたかった」

◆穂谷舞台に「里山研究」

小田、藤本に、加藤剛浩(同4年)らも加わり、8人でスタート。日本証券業協会の「証券外務員(2種)」の資格取得にも挑戦した。大阪証券取引所も見学したという。



加藤 剛浩

1年後、同好会に昇格し、名称も現在の「イベント系投資部」に増えた。は約20人に増えた。「こんどは裁判員制度」を勉強しよう。「それには、現場や」。大阪地裁や大阪高裁に出かけ、刑事裁判を傍聴した。活動の場はイベントの企画や実行にも広がった。

オープンキャンパスへの参画も、その一つ。「穂谷の里山」に、メンバーが注目したのは2年前。自然観察会に参加したり、市民から穂谷の魅力聞き取ったり。その成果をオープンキャンパスに生かしてきた。

◆「何でも見てやろう」が原点

小田が穂谷のPR役を務めるのは3年連続。司会を担当した吉瀬安奈(同2年)は初めての体験だった。藤本も大手銀行に内定した就活体験を発表した。今年約30人の部員のうち、7人がオープンキャンパスに関わった。

藤本と加藤は言う。「何でも見てやろう」の精神がこの部のチャームポイント。面白く、楽しく、熱中するが合い言葉です。ほくらも引込み思案だったけど、それも吹っ飛んでしまいました。この春、正式の部に昇格した。フィールドは無限に広がろう。

◆日本生命相手にノーヒット・ノーラン



全日本総合女子選手権大会の優勝トロフィーを前に

ソフトボール部が「全日本総合女子選手権大会」で初優勝を飾ったのは96年6月だ。

ソフトボール部は97年のインカレ(鹿児島)で3位、98年の西日本大学選手権(鳥取)では準優勝に輝く。2001年春の「関西学生女子1部リーグ戦」では初優勝し、実業団や大学の強豪が「日本一」を争う「全日本総合選手権大会」にも出場した。

◆黄金時代、だった。

◆佐川急便で「日本一」めざす

日本女子リーグ1部の、佐川急便ソフトボール部(本拠地・京都市)。本学出身の帰山悦子(外国語学部03年卒)は、主力投手陣の一人だ。変化球を組み合わせた頭脳的な投球で、「日本一」をめざす。

中学校時代からソフトボールに打ち込んだ帰山は、英語も好きだった。特に入試で外国語学部に入學し、ソフトボール部に。穂谷のグラウンドへはバイクで通った。

卒業後は「ミキハウス」に所属した。しかし、3年前に廃部になり、佐川急便へ。チームはリーグ3部からのスタートだったが、帰山の活躍もあって07年には1部に昇格した。

◆こちらも「Wリーグ」で優勝めざす

大阪国際女子大との決勝戦も、増田が登板し、白熱の投手戦に。中出智子(外国語学部99年卒、病院職員)が終盤、左中間へ本塁打、1-0で勝った。決勝のソロを放った中出は言う。

「手応えはありました。柵を越えたか分からず、全力疾走。審判の手がぐるぐる回ったときは、うれしくて……。忘れられない思い出です」

◆「三菱電機コアラーズ」(名古屋)所属の杉田愛友香(穂谷短大08年卒)も、「女子日本リーグ(WJBL)」で優勝をめざす。杉田は身長177センチ。ジャンプシュートが得意だ。

短大入学直後からバスケットボール部のレギュラーに。06、07年連続で

懐かしい話で盛り上がる。チームワークは健在だ。

◆「何でも見てやろう」の精神がこの部のチャームポイント。面白く、楽しく、熱中するが合い言葉です。ほくらも引込み思案だったけど、それも吹っ飛んでしまいました。この春、正式の部に昇格した。フィールドは無限に広がろう。

<p>【女子団体5部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本学 1-4 四天王寺大 ●本学 1-4 京都教育大 ●本学 0-5 京都外大 ●本学 1-4 滋賀大経済学部 <p>◆第59回関西学生選手権大会 (6月8日~23日、舞洲アリーナ)</p> <p>【男子ダブルスBクラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●三原・板本 0-2 阪南大 <p>【女子ダブルスBクラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●豊谷・中山 0-2 滋賀大経済学部 	<p>【女子2部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本学 0-3 天理大 ●本学 0-3 園田女子大 ●本学 1-3 佛教大 ●本学 1-3 大阪大谷大 ●本学 0-3 関西大 ○本学 3-0 滋賀短期大 ●本学 0-3 びわこ成蹊大 ○本学 3-0 びわこ成蹊大 (本学は7位で2部残留) 	<p>○本学 3-0 京都大</p> <p>●本学 1-3 関学大 (予選リーグ敗退)</p>	<p>◆第41回春季関西学生リーグ戦 (4月11日~5月4日、園田女子大)</p> <p>【1次リーグ・1部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本学 0-5 園田女子大 ●本学 1-3 天理大 ●本学 0-10 大阪国際大 ●本学 1-8 龍谷大 <p>【部別リーグ・2部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本学 11-1 奈良教育大 ○本学 10-0 四天王寺大 ○本学 18-0 大阪府立大 ○本学 8-0 びわこ成蹊大 ○本学 2-1 大体大 <p>(2部優勝)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▽ベストプレー賞(2部) = 吉田華奈子 ▽最優秀投手賞(2部) = 檜垣綾 <p>(本学は5勝4敗で1部9位。第41回西日本大学選手権に出場決定)</p> <p>◆大阪総合女子大会 (5月10日、此花区コミュニティグラウンド)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本学 0-10 大阪大谷大 	<p>◆第78回関西学生選手権大会 (5月29日~31日、京都市体育館他)</p> <p>【女子ダブルス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▽2回戦 ○古川・梁 3-1 大阪経法大 ●廣田・山岡 0-3 神戸松蔭女子大 ●町田・濱野 0-3 同志社大 ●安達・坂元 2-3 近畿大 ▽3回戦 ●古川・梁 0-3 龍谷大 ▽1回戦 ○川嶺 宏和 3-0 京都橋大 ▽2回戦 ●川嶺 宏和 0-3 立命館大 <p>◆第79回全日本大学対抗選手権大会 関西予選リーグ戦 (6月21日、近畿大学記念会館)</p> <p>【女子団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本学 3-0 大阪教育大 	<p>◆第20回全日本学生西日本大会 (5月30、31日、富山県特設レング)</p> <p>谷口裕子 = 70点・274点、60点・298点、50点・274点、30点・325点で37人中17位</p> <p>◆テクニカルカップ (6月7日、大阪大レング)</p> <p>成田めい = 70点・230点、60点・272点、50点・234点、30点・318点で32人中24位</p> <p>谷口裕子 = 70点・204点、60点・287点、50点・266点、30点・320点で32人中22位</p>	<p>◆第13回西日本学生選手権大会 (5月17日、大阪府立体育館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本学 1-6 大阪市立大 <p>◆第10回西日本学生個人選手権大会 (6月14日、吹田市洗心館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▽2回戦 ●長谷川晋佑 	<p>◆第57回関西学生選手権大会・第39回関西学生女子選手権大会 (5月10日、舞洲アリーナ)</p> <p>【男子個人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▽1回戦 ●清瀬 満生 一②② 関西大 <p>【女子個人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▽1回戦 ●松本 美那 一② 関西福祉大 ●倉井 彩 一② 武庫川女子大 ●中西由香 一③ 関西大旧II部 	<p>◆第59回関西学生優勝大会 (6月6日、兵庫県立武道館)</p> <p>【男子団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▽1回戦 ●本学 2-3 大阪大 	<p>◆第86回関西学生対抗選手権大会 (5月8日~17日、西京極陸上競技場他)</p> <p>【女子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▽百点準決勝 = ⑦石野恵理12秒67 ▽二百点予選 = ③羽野彩加26秒60 ▽4×百点リレー予選 = ⑤本学(姥谷、石野、永岡、羽野)49秒42 ▽八百点予選 = ④古田玲子2分20秒36 ▽千五百点予選 = ⑫麻植由香梨4分57秒64 ▽五千点決勝 = ⑩岡美奈恵19分27秒40 ▽走り高跳び決勝 = ⑨大野美帆11分60 ▽走り幅跳び決勝 = ⑫永岡飛鳥5分38 ⑬富田真美5分16 ⑭加藤有紗4分8 ▽三段跳び決勝 = ⑤姥谷綾那11分82 	<p>◆第3回アジアインターナショナル オープンチャンピオンシップ (5月16、17日、東京・国立代々木競技場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▽Division 1決勝 = ⑩パイレーツ <p>◆第18回関西選手権大会兼 日本選手権地区予選 (6月21日、大阪府立体育館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▽Division 1決勝 = ⑥パイレーツ <p>(規定、自由演技の得点を合計した総合得点3位で日本選手権の出場権獲得)</p>
---	---	---	--	--	---	---	--	---	--	--

Sports & Culture

「全日本学生選手権大会(インカレ)」に出場する原動力となった。07年には、先輩の中野真由美(国際言語学部08年卒)とともに「関西女子学生選抜チーム」のメンバーにも選ばれている。

三菱電機コアラーズは昨年、4シーズンぶりに「Wリーグ」に復帰した。今年の開幕は9月。杉田のポジションは「センター」。攻撃の中心だ。

「学生時代は、バスケットボールを楽しんで。でも、いまは違う。少しでも、気持ちが悪くはだめ。早くスターティングメンバーになり、チームに貢献したい」

一方の中野。卒業後は、教員の道を選んだ。愛知みずほ大学瑞穂高校(名古屋)で、英語を教えている。しかし、バスケットボールと縁が切れたわけではない。

昨年春、着任と同時に、バスケットボール部の顧問になった。だが、今年3月、部員は半減し、休部もささやかれた。「ここで負けたらだめ」。中野の負けん気が出る。先頭に立って新入生を勧誘した。6月には、部員は11人に増えた。

中野は第2言語で中国語を学んだ。両親と来日し、同校に入学した中国出身の1年生の男子生徒は「中国語を話せる先生がいる」と聞いて入部を決めた。中国語がここで生きた。

「スポーツも、勉強も、しっかりと頑張らないと...。フアイト、フアイトです。生徒たちには、いつも『闘志に勝る技術はない』と教えています」

◆「ハワイ合宿」の効果は絶大
バスケットボール部は08年2月、ハワイ大学ヒロホ校で合宿し、日系二世のコーチ、ジミー・ヤギの指導を受けた。成果は上がった。同年4月の「全関西女子学生選手権大会」。本学は1部で3位に入賞した。



教え子の部員に囲まれる中野真由美(中央)

◆勉強もスポーツもフアイト!!
01年春、珍しいサークルが結成された。セパタクロイ同好会。東南アジアが発祥の地で、足のバレーボールとも呼ばれ、3人一組で対戦する。関西の大学で現在、サークルがあるのは本学と関西学院大、桃山学院大だけ。社会人チームを含めても、関西には5チームしかない。

◆珍しい「セパタクロイ同好会」
「フレッシュな気持ちだったから、新しいスポーツに挑戦したかった。テレビで見たセパタクロイのカッコいい、空中戦」を思い出したんです」

◆「ハワイ合宿」の効果は絶大
井上は「空中でボールを蹴って、スバイクしたり、レシーブしたり、パスしたり。体力もいる。蹴鞠のような、遊び感覚の練習も取り入れ、何とか続けました」と振り返る。

◆全国大会で男女ともベスト8に
昨年2月の「第7回ジュニア選手権大会」(東京)。セパタクロイを始めて2年以内のチームが出る大会だ。

◆「フレッシュな気持ちだったから、新しいスポーツに挑戦したかった。テレビで見たセパタクロイのカッコいい、空中戦」を思い出したんです」

◆「ハワイ合宿」の効果は絶大
井上は「空中でボールを蹴って、スバイクしたり、レシーブしたり、パスしたり。体力もいる。蹴鞠のような、遊び感覚の練習も取り入れ、何とか続けました」と振り返る。

◆全国大会で男女ともベスト8に
昨年2月の「第7回ジュニア選手権大会」(東京)。セパタクロイを始めて2年以内のチームが出る大会だ。

◆「フレッシュな気持ちだったから、新しいスポーツに挑戦したかった。テレビで見たセパタクロイのカッコいい、空中戦」を思い出したんです」

◆「ハワイ合宿」の効果は絶大
井上は「空中でボールを蹴って、スバイクしたり、レシーブしたり、パスしたり。体力もいる。蹴鞠のような、遊び感覚の練習も取り入れ、何とか続けました」と振り返る。

◆全国大会で男女ともベスト8に
昨年2月の「第7回ジュニア選手権大会」(東京)。セパタクロイを始めて2年以内のチームが出る大会だ。

◆「フレッシュな気持ちだったから、新しいスポーツに挑戦したかった。テレビで見たセパタクロイのカッコいい、空中戦」を思い出したんです」

◆「フレッシュな気持ちだったから、新しいスポーツに挑戦したかった。テレビで見たセパタクロイのカッコいい、空中戦」を思い出したんです」

◆「ハワイ合宿」の効果は絶大
井上は「空中でボールを蹴って、スバイクしたり、レシーブしたり、パスしたり。体力もいる。蹴鞠のような、遊び感覚の練習も取り入れ、何とか続けました」と振り返る。

◆全国大会で男女ともベスト8に
昨年2月の「第7回ジュニア選手権大会」(東京)。セパタクロイを始めて2年以内のチームが出る大会だ。

◆「フレッシュな気持ちだったから、新しいスポーツに挑戦したかった。テレビで見たセパタクロイのカッコいい、空中戦」を思い出したんです」

◆「ハワイ合宿」の効果は絶大
井上は「空中でボールを蹴って、スバイクしたり、レシーブしたり、パスしたり。体力もいる。蹴鞠のような、遊び感覚の練習も取り入れ、何とか続けました」と振り返る。

◆全国大会で男女ともベスト8に
昨年2月の「第7回ジュニア選手権大会」(東京)。セパタクロイを始めて2年以内のチームが出る大会だ。

◆「フレッシュな気持ちだったから、新しいスポーツに挑戦したかった。テレビで見たセパタクロイのカッコいい、空中戦」を思い出したんです」

◆「ハワイ合宿」の効果は絶大
井上は「空中でボールを蹴って、スバイクしたり、レシーブしたり、パスしたり。体力もいる。蹴鞠のような、遊び感覚の練習も取り入れ、何とか続けました」と振り返る。

◆全国大会で男女ともベスト8に
昨年2月の「第7回ジュニア選手権大会」(東京)。セパタクロイを始めて2年以内のチームが出る大会だ。

◆「フレッシュな気持ちだったから、新しいスポーツに挑戦したかった。テレビで見たセパタクロイのカッコいい、空中戦」を思い出したんです」

◆「ハワイ合宿」の効果は絶大
井上は「空中でボールを蹴って、スバイクしたり、レシーブしたり、パスしたり。体力もいる。蹴鞠のような、遊び感覚の練習も取り入れ、何とか続けました」と振り返る。

◆「フレッシュな気持ちだったから、新しいスポーツに挑戦したかった。テレビで見たセパタクロイのカッコいい、空中戦」を思い出したんです」

◆「ハワイ合宿」の効果は絶大
井上は「空中でボールを蹴って、スバイクしたり、レシーブしたり、パスしたり。体力もいる。蹴鞠のような、遊び感覚の練習も取り入れ、何とか続けました」と振り返る。

◆全国大会で男女ともベスト8に
昨年2月の「第7回ジュニア選手権大会」(東京)。セパタクロイを始めて2年以内のチームが出る大会だ。

◆「フレッシュな気持ちだったから、新しいスポーツに挑戦したかった。テレビで見たセパタクロイのカッコいい、空中戦」を思い出したんです」

◆「ハワイ合宿」の効果は絶大
井上は「空中でボールを蹴って、スバイクしたり、レシーブしたり、パスしたり。体力もいる。蹴鞠のような、遊び感覚の練習も取り入れ、何とか続けました」と振り返る。

◆全国大会で男女ともベスト8に
昨年2月の「第7回ジュニア選手権大会」(東京)。セパタクロイを始めて2年以内のチームが出る大会だ。

◆「フレッシュな気持ちだったから、新しいスポーツに挑戦したかった。テレビで見たセパタクロイのカッコいい、空中戦」を思い出したんです」

◆「ハワイ合宿」の効果は絶大
井上は「空中でボールを蹴って、スバイクしたり、レシーブしたり、パスしたり。体力もいる。蹴鞠のような、遊び感覚の練習も取り入れ、何とか続けました」と振り返る。

◆全国大会で男女ともベスト8に
昨年2月の「第7回ジュニア選手権大会」(東京)。セパタクロイを始めて2年以内のチームが出る大会だ。

◆「フレッシュな気持ちだったから、新しいスポーツに挑戦したかった。テレビで見たセパタクロイのカッコいい、空中戦」を思い出したんです」

◆「ハワイ合宿」の効果は絶大
井上は「空中でボールを蹴って、スバイクしたり、レシーブしたり、パスしたり。体力もいる。蹴鞠のような、遊び感覚の練習も取り入れ、何とか続けました」と振り返る。

◆「フレッシュな気持ちだったから、新しいスポーツに挑戦したかった。テレビで見たセパタクロイのカッコいい、空中戦」を思い出したんです」

◆「ハワイ合宿」の効果は絶大
井上は「空中でボールを蹴って、スバイクしたり、レシーブしたり、パスしたり。体力もいる。蹴鞠のような、遊び感覚の練習も取り入れ、何とか続けました」と振り返る。

◆全国大会で男女ともベスト8に
昨年2月の「第7回ジュニア選手権大会」(東京)。セパタクロイを始めて2年以内のチームが出る大会だ。

◆「フレッシュな気持ちだったから、新しいスポーツに挑戦したかった。テレビで見たセパタクロイのカッコいい、空中戦」を思い出したんです」

◆「ハワイ合宿」の効果は絶大
井上は「空中でボールを蹴って、スバイクしたり、レシーブしたり、パスしたり。体力もいる。蹴鞠のような、遊び感覚の練習も取り入れ、何とか続けました」と振り返る。

◆全国大会で男女ともベスト8に
昨年2月の「第7回ジュニア選手権大会」(東京)。セパタクロイを始めて2年以内のチームが出る大会だ。

◆「フレッシュな気持ちだったから、新しいスポーツに挑戦したかった。テレビで見たセパタクロイのカッコいい、空中戦」を思い出したんです」

◆「ハワイ合宿」の効果は絶大
井上は「空中でボールを蹴って、スバイクしたり、レシーブしたり、パスしたり。体力もいる。蹴鞠のような、遊び感覚の練習も取り入れ、何とか続けました」と振り返る。

◆全国大会で男女ともベスト8に
昨年2月の「第7回ジュニア選手権大会」(東京)。セパタクロイを始めて2年以内のチームが出る大会だ。

◆「フレッシュな気持ちだったから、新しいスポーツに挑戦したかった。テレビで見たセパタクロイのカッコいい、空中戦」を思い出したんです」

◆「ハワイ合宿」の効果は絶大
井上は「空中でボールを蹴って、スバイクしたり、レシーブしたり、パスしたり。体力もいる。蹴鞠のような、遊び感覚の練習も取り入れ、何とか続けました」と振り返る。

Table with sports records for tennis, including hard court and soft court sections, listing matches and scores.

Table with sports records for basketball, listing matches and scores.

Table with sports records for volleyball, listing matches and scores.

Table with sports records for badminton, listing matches and scores.

Table with sports records for table tennis, listing matches and scores.

北方工大の13人が穂谷へ

初の学位留学生、3年次に編入

「ASEAN+3」第1号

中国の単位互換提携校、北方工業大(北京市)の学生13人が9月に、国際言語学部の3年次に学位留学生として編入する。この春、発足した「ASEAN+3」大学コンソーシアムプロジェクトの受け入れ第1号で、卒業時に本学と北方工業大の「二重学位」取得をめざす。また、大学院にも、西安外国語大学など中国2大学の4人が9月に入学する。

3年次編入学が決まったのは、北方工業大文法学院日語系に在学中の2年生の男子1人、女子11人と現在、交換留学生として国際言語学部で学んでいる男子学生1人。同大の学長の推薦を受け、書類選考で合格、6月と7月の国際言語学部学教授会で承認した。全員が中国語コミュニケーションコースに入

り、2年間にわたって学部の授業を受講する。

海外からの学位留学生受け入れは、学部レベルでは初めて。13人が所定の単位を取得すれば、2011年9月の卒業時に両大学の学位を授与する。

本学と北方工大は昨年春、国際言語学部の3年次編入生として10人前後を受け入れ、選考は学長推薦で行う——などで合意している。

また、この3月には、文科省の「教育GP」に採択された日中韓3国などによる「ASEAN+3」大学コンソーシアムがスタートしたことから、今回の学位留学生受け入れをプロジェクト第1号に位置付けた。

13人は穂谷学舎の中国交流センターにある宿泊施設に約半年間入った後、大学の紹介する民間マンションなどに移る。入学金全額と授業料の半額は免除される。

一方、大学院には、西安外国語大学の女子学生2人が言語文化専攻前期に、同大と大連外国語学院大学院の女子学生各1人が同後期に入学する。4人は外国人留学生海外提携大学推薦入試に応募し、合格した。

英語教育インターン生

豪から穂谷に3人受け入れ

本学は、国際言語学部に豪州の学生を対象とする「英語教育インターンシッププログラム」を導入することを決め、提携大学のフリンダース大学(アデレード)を窓口希望者を募っている。募集人数は3人で、書類選考などを経て、11月には受け入れる。

英語教育のインターンシップ生受け入れは初めて。応募資格は豪州の主要大学の学生か、大学院生で、在籍する大

恒例の「外交講座」が6月23日、中宮学舎のマルチメディアホールであり、外務省国際協力局多国間協力課の石原猛さんが「人間の安全保障の現状と課題」と題して講演した。写真。テーマは、地球上の紛争、テロ、環境破壊、通貨危機、感染症、貧困などあらゆる恐怖と欠乏に直面する一人ひとりが対処する方策。遠隔授業システムを使って穂谷学舎にも中継され、大学院や外国語学部、国際言語学部、短大部の学生計約200人が受講した。

09年秋派遣留学生代表 決意表明(要旨)

外国語部英米語学科 久保 舞さん (交換留学、仏PGSMビジネス大学連合)



私にはアパレル会社を経営したいという夢があります。基礎美容法の会社を経営している母の影響です。自分の好きな仕事に没頭できる母のようになりたいと思っています。

ファッションに興味を持ったのは昨年夏アメリカに留学したときの経験からです。イタリア人の友だちから「日本人はとてもおしゃれだ」と評され、日本のファッションを世界に広げていきたい

外国語部英米語学科 貞光 裕二君 (2カ国留学、1年目米イースタンシガン大学、2年目フィンランド・ヨエンス大学)



柔道一辺倒だった高校時代、けがのため進路変更を余儀なくされました。その

とき、副担任の勧めで本学のオープンキャンパスに来て、留学から帰国した外大生の話を聞いたのがきっかけ。「私も留学しよう」と決心。鬼のように頑張って英語の勉強に取り組み、無事合格できました。入学後、TOEFLのスコアアップ

「人間の安全保障」とは 外交講座に200人

現代社会は、紛争やテロなどの「恐怖」と、通貨危機や環境破壊、貧困などの「欠乏」がたやすく国境を越え、個人が脅威に直面する特質がある。これに対処する「人間の安全保障」について、石原さんは「保護」と「能力強化」によって個人が脅威に立ち向かえるようにし、社会や国づくりを進めるという外



務省の考え方を紹介した。「人間の安全保障」登場の背景には、グローバル化の進展▽冷戦の終了▽気候変動——など国際情勢の変化がある。石原さんは「ヒト・モノ・カネの地球規模の移動により、金融危機、通貨危機のほか、HIVや新型インフルエンザといった感染症などが、瞬く間に世界に広がる。また、冷戦構造の崩壊により、内戦が頻発し、武器管理も困難になっている」と説明した。

留学からの帰国生のための 就職ガイダンス



長期留学からの帰国生を対象とした就職ガイダンスが、5月30日、6月13日、同27日に中宮キャン

パスであり、合わせて約1500人が参加した。まず、キャリアセンターの藤岡弘樹主任が今年度の採用活動や狙える業種・職種について説明、「各社には一般に知られた業務とは別の仕事をしているケースが少なくないので、個々の企業を詳しく調べよう」と注意を促した。このあと、リクルートのスタッフが応募先の探し方、留学生にふさわしい自己PRの方法などを解説、6月段階では、就職情報サイトには有力情報がほとんど掲載されなくなるとの指摘があった。各社のホームページで補充募集がないかをこまめにチェックすることが大切といえそうだ。

PICK UP!!

■学生証が変わります
現学生証は来年3月まで
本学は、平成22年4月より新しい学生証を導入することになった。現在の学生証は、平成22年3月末に期限切れとなる。
新学生証は、現学生証と同様ICチップ内蔵だが、かざすだけでデータを読み取ることができるようフェリカ・カードになる。また、現学生証ではVISAクレジットカード機能を付けることができたが、新学生証では全員が学生証に電子マネー機能(電子マネー)がつけられ、あらかじめチャージすることで、証明書自動発行機で証明書や申込書を手取りできる。キャンパス外でも、PCの読み取りレジのあるコンビニなどの店で、キャッシュレスで買い物ができる。
新学生証は、来年3月中旬の新学期別履修登録ガイダンス時より、現学生証と引き換え、現学生証はクレジットカードの有効期限に限らず平成22年3月末まで回収され、ICチップへの課金残高は、新学生証に移管されない。来年3月中旬までに使い切っておく必要がある。
留学中(来春の春学期語学留学・研修も含む)の学生は、帰国後に交換する。詳しくは留学のオリエンテーション時に説明する。



座談会

2年間の留学からの帰国生と語る

学位留学など2年間の留学からの帰国生と、在學生との座談会が6月16日夕、中宮キャンパスの国際交流センターで開かれた。参加した帰国生は米国学位4人、スウェーデン学位1人、2カ国2人で、在學生はこれから2年間の長期留学を目指す1、2年生やすでに派遣が決まっている学生ら約120人。2年間の留学につながる英語特技入試の入学者が参加していた。3プログラムに分かれ、それぞれのプログラムの特徴を聞いた。

学位取得のため教養科目も履修

【米国学位】

(帰国生) 秦悠子さん=ニューヨーク州立大学オルバニー校、森真規さん=ファーマン大学、西森武史君=パシフィック大学、郎綾芳さん=同。

授業についての質問が多く出され、学位を取得するために、関西外大では履修しなかった数学や天文学のような一般教養科目を取らなければならないのがこの

プログラムの特徴だ。4人は「死ぬほど勉強した」「当初はやっていけるか不安になったが、乗り切れるものだ」などと話していた。就職活動については「ニューヨークやボストンでキャリアフォーラムが開かれるので、それに参加した。日系企業だと、すこし身だしなみに気をつけないといけないのかな」。

好きな大学を選び深く学べる

【2カ国留学】

(帰国生) 三宅愛さん=1年目ルイスアンドクラーク大学(米)・2年目香港中文大学(中国)、丸山野涼介君=1年目イースタンミシガン大学(米)、2年目オレプロ大学(スウェーデン)

学位留学との違いに関する質問が多かったが、二人は「こちらのプログラムには学位という形として残るものはないが、好きな大学を選んで、興味のある分野だけを深く学べるのが特徴」と話し、英語圏以外の国への留学では英語が中途半端にならないかという質問には「授



業は英語で行われているのでその心配はない。ただ現地語については相当に覚悟して取り組まないとダメ。日常会話をこなせるようにはなる」と答えていた。

二つの国で学び学位も取得

【スウェーデン学位】

(帰国生) 水野裕君=1年目ポートランド州立大学(米)・2年目ヴェクショー大学(スウェーデン)

「二つの国を経験でき、しかも学位が取れる大変お得なプログラム。ヨーロッパに留学したかったので、真っ先に申し込んだ」というのが水野君。ただ、アメリカでベーシックな科目を履修して2年目に備えるため、絶えずヴェクショーのアドバイザーと連絡を取っておく必要がある。「スウェーデンでは卒業論文を書かないといけない。一日中いすに座っておしりが痛くなるのも忘れたほど」と苦心談を語った。

長期留学で何を掴み、将来につながるものを見つけることができたのか——。1年または2年の留学を終えて帰国した3人に振り返ってもらった。

水野 裕君 スウェーデン学位留学
ヴェクショー大学(1年目ポートランド州立大学)



高校時代は勉強が苦手、唯一まじったのが洋楽を聞いていた関係で英語。なんとか短大部の夜間に入学、ミナミのクラブでアルバイトしているとき、「自分の居場所ではない」と感じ、編入学試験を目指しました。先輩が留学するのを見

森 真規さん 米国学位留学
ファーマン大学

高校1年のときアメリカのサンディエゴで3週間ホームステイをし、それ以来、留学を決心。「留学なら関西外大」と迷うことなく入学しました。将来アメリカで仕事をするには学位は大切だと思って学位留学を選びました。ファーマン大学にしたのは、南部にあるのでマイノリティや人種差別について肌で感じることができると思ったからです。実際、大学の中では日本人



賀儀山 泰志君 交換留学
ユナイテッドステイツ国際大学アフリカ(ケニア)

ケニアは第一志望でした。ニュースで貧困や紛争が伝えられるアフリカを実際に見たいというのが動機です。決まったとき両親に話したら、困惑した顔で「よかったね」と言われました。

大学は図書館などの施設もいいし、セキュリティもしっかりしていました。少し困ったのは英語。先生もアフリカ訛りの英語を使うので慣れるまででこずりました。専攻は国際関係学。アフリカの現状、問題点に焦点を当てて授業が進められ、ケニアの大統領選後の暴動などについて現地の学生の意見を聞くのは貴重な体験でした。

世界で2番目に大きいキベラ・スラムでボランティア活動に参加し、孤児院のよう

プレゼンの特別セミナー



ビジネスプレビューの特別プレゼンテーションセミナーが6月1日、中宮キャンパスのマルチメディアホールで行われ、穂谷キャンパスへも同時中継された。ガー・レイノルズ准教授のセミナーを特別公開したもので、長期留学予定者ら両キャンパス合わせて約150人が「プロのプレゼン」を体験した。

レイノルズ准教授はアメリカや日本の企業に勤務したときに見聞したプレゼンを参考にしながら、「スライドを簡素化すること。人をひきつけるプレゼンをするには、スライドは補助的ツールとして使うことが大切」と強調した。

フルブライト訪問団が来学

フルブライト国際教育交流プログラム参加者一行6人が、6月16日、中宮キャンパスを訪問、本学への留学生3人、長期留学から帰国した外大生3人と「留学のインパクト」をテーマに懇談した。訪問団はニューヨーク市立大学ステッテンアイランド校、サウスフロリダ大学、ジョージア大学、セントキャサリン大学の国際交流担当者。

帰国生は留学中の勉強や苦労したことを、留学生は来日した動機、本学での履修科目、クラブ活動、大学内外での取り組みについて話した。訪問団からは留学生に将来の進路や夏休みの計画を質問、帰国生には留学先で改善したらと思った点はないかを聞いていた。

長期留学で何を学び取ったか

「輝いている」と思ったのが、留学の動機です。

学位留学と2カ国留学の両方に受かったのですが、ちょうどスウェーデン学位のプログラムができ、運命的なものを感じてそれにしました。経済学を専攻したのは発展途上国の開発に興味があったからです。経済を知ることは必須だと思ったのですが、高校の時全然やっていなかった数学をアメリカでもスウェーデンでも受け、大変でした。

「やり通した」と思うのは、卒業論文を書き上げたこと。エネルギー税がCO₂の削減にどう貢献するかがテーマで、各種の統計データを使って相関を調べました。A4判50枚にもなりましたが、「A」の評価をいただきました。

留学でさまざまな国の人に会い、国の内と外から見る目が養われたと思います。将来は国際協力に関係する分野で仕事ができればと考えてます。

は2、3人で完全なマイノリティで、自分から働きかけなければ相手にしてもらえないことを実感しました。

シカゴの社会福祉団体が運営している日帰りの子どもサマーキャンプでインターンシップをしました。人数は約40人、アフリカ系アメリカ人80%、ヒスパニック20%でしたが、統率するのに苦労しました。日本文化の紹介ということでお習字をやったり、日本料理を食べさせたりすると興味を持ってくれました。このインターンシップでは、私のそうした計画を立て、遂行する能力を評価してもらいました。2年間の留学で、文化の違い、価値観の違いを感じることができたのが最大の収穫です。

ファーマンで専攻したのは社会学ですが、その基礎の上にソーシャルワーカーになろうと思っています。9月からシカゴのイリノイ大学の大学院に入学し、修士号を取ります。将来は日本にソーシャルワークの基盤を作りたいですね。



なところで、子ども達とサッカーなどをしました。「貧困に苦しむ人を助けたい」と意気込んでいたのですが、実際に接してみると、貧しいながらも幸せそうなんです。電気も水も食べ物すらろくになくところなのに、家族が寄り添って笑顔も出ている。自分たち日本人は、お金はあるけれども、幸福だとは思っていない。先入観で判断すると、大事なものを失うことになる。自分の価値観とは違う価値観があるんだと気づかされたわけです。何を幸福と思うかは、一面的ではなく、さまざまな見方があること、これが1年間アフリカの地で過ごし、学び取ったことです。

サポートしよう 学生の将来

教職員の「進路・就職勉強会」

大学のキャリア教育と学生の進路・就職指導をテーマとした、教職員対象の「進路・就職勉強会」が6月25日、中宮学舎で開かれた。写真。クラスアドバイザーを中心に約50人が参加。デイズコ大阪支社長の尾林正幸さんが企業の採用活動調査(今年5月)と全国の大学4年生を対象とした就職活動モニター調査(同6月)の結果をもとに説明した。勉強会の様子は同日午後、穂谷学舎でもビデオ放映された。

企業の調査では、文系学生の資料請求・エントリー者数、選考への応募者数について、それぞれ76・1%、67・5%の企業が「増えた」と回答。一方、選考途中の辞退者数は37・2%が「減った」としている。また、内々定を出した学生には質・量ともに満足している企業が多く、企業側の満足感がうかがえるという。今年の就職戦線では学生が積極的かつ慎重にチャレンジし、企業側はこれをじっくり見定める傾向が強いと見られる。尾林さんは「買い手市場の傾向が強まっている」と話した。モニター学生の調査結果で、尾林さんは「圧倒的な大手志向が見られる。商品を作り、テレビCMなどで有名なメーカーばかり光が当たり、実績はあるのに世間的に認知度の低い中堅企業は見落とされがち」という傾向を強調。企業研究で表面的なことしか目を向けていないため、これが求人と求職のミスマッチを作り出す原因になっていると指摘した。



「自己発見レポート」に学ぶ

関西圏・首都圏の大学と比較

学生のキャリアアップをめざし、主に大学、短大部1年生のクラスアドバイザーが教職員対象の「自己発見レポート」結果報告会が5月28日に開かれた。写真。キャリアセンター主催で、教職員約40人が参加。ベネッセコーポレーションの担当者3人が、データ分析をもとに、本学をはじめ関西圏、首都圏の大学との比較し、キャリア形成意識の向上策などをアドバイスした。新入生対象の「自己発見レポート」は今年、大学、短大部の1年生を対象に実施された。大学と短大部それぞれの結果を、基礎学力▽社会的強み▽進路への意識▽問題解決のスキル▽職業への興味▽入学理由



JR西日本伊勢丹
人事部開発担当長
吉村 卓勇さん

百貨店の起源は1852年フランスのボンマルシェ。日本では1904(明治37)年開店の三越が一番古い。戦後は電鉄系の百貨店が伸びた。70年代から多店舗化、多角化経営が進んでいる。また、バブル経済崩壊以降、売り場面積が増えているのに、売上高は年々減少。現在は「大統合時代」を迎え、従来の大手9社が2011年までに4グループに再編される。

百貨店を 取り巻く環境

「百貨店の特徴は対面販売にある。商品の良さを伝え、顧客からも情報を得る双方向性。伊勢丹では「販売」商品(独自性、安心・安全)＋サービス(おもてなしの心)＋情報(顧客ニーズ)＋環境(安全・清潔な非日常的空間)」をポリシーにしている。顧客のライフスタイルをつかみ取るという意味で、社員には「質問力」が必要だ。仕事の基本は「マーチャンダイジング(MD)」。生産現場から消費者まで、販売▽マーケティング▽商品計画▽展開計画▽販売計画という商品サイクルだ。重視するのは、▽サービス精神▽コミュニケーション

(第8回 6月4日)

再録・キャリア講座 その2



三井住友銀行
人事部採用・キャリア開発グループ
高松 稔さん

銀行は規制緩和によって、さまざまな金融ビジネスができるようになった。また、再編が進み、現在は3メガバンクの時代。三井住友銀行もその一角にある。こうした銀行は、個人▽法人▽企業金融▽国際▽市場営業▽投資銀行——と本部スタッフの7部門から成り立っている。近年、業界を取り巻く環境は大きく変化している。1970年代に1ドル360円の固定相場制が崩壊し、円高不況に見舞われた。90年代前半には、バブル経済が破綻し、不良資産を抱えた金融機関に公的資金が注入された。「失われた10年」を経て、2008年に米国のサブプライムローン問題に端を発し

変貌を遂げる 金融ビジネス

金融機関が協力し合うシンジケートローン(協調融資)などが注目される。個人金融でも、「貯蓄から投資へ」というニーズの変化に対応して、銀行のビジネスチャンスは広がっている。いい。法人ソリューションビジネスでは、M&A(合併と買収)や、

(第9回 6月11日)

PICK UP!!

■夏期インターンシップ説明会
5月26日から、今年度の夏期インターンシップについての説明会が中宮学舎で開かれた。新しい日程が1週間先送りになったが、学生の関心は高く、3日間で計約1100人が参加した。会場では、キャリアセンターから説明を受け、企業などで研修した学生から体験などを聞いた。
■今春は80人が教員に
教務部のまとめた教員就職結果報告によると、今春の卒業生のうち小中高校の教員に採用されたのは80人だった。前年度より12人減。内訳は専任教員が21人(高校1人、中学16人)、小中3人、特別支援学校1人、常勤講師が35人、非常勤講師が24人。学部別では、外国語学部が56人で前年度より10人減、国際言語学部は19人で3人減、大学院は5人で1人増えた。

就職に関する Q&A

Q 3年生です。就職戦線は厳しくなる一方と聞いていますが、この夏休みにどんなことをしておけばいいのでしょうか?

A 4年生が苦戦しています。従来よりも筆記試験のハードルが高くなり、その関門をクリアできないケースも増えているようです。

来年の就職環境はもっと悪化するというのが、大方の予想です。採用数を絞る企業が増え、人気企業ではさらに筆記試験のウエイトが増すでしょう。秋になると、10月1日のエントリー開始、11月以降の合同説明会などに備え、業界研究・企業研究に取り組みなければなりません。夏休み中に、筆記試験対策とともに、エントリー時に自信を持って自己PRできるよう、しっかりと自己分析をしておいてください。

図書館ニュース LIBRARY NEWS

新着本

『風に舞いあがるビニールシート』

森絵都著、(株)文藝春秋
所蔵:中宮図書館2F文庫、穂谷図書館4F一般図書



表題作のほか、5編の物語を収録しています。そのいずれもが短篇で、印象深い作品です。「ビニールシート」と聞いて、皆さんはどんなシーンを思い浮かべますか。選足?運動会?お花見?……そこには必ず誰かの笑顔があるはずで、誰もが笑顔を手に入れられるように、その思いを込めて、難民キャンプで働く人たちが登場します。一人の男性と、彼を愛した女性の決意とは?

『松本清張を推理する』

阿刀田高著、朝日新聞出版
所蔵:中宮図書館3F一般図書



松本清張ファンという著者が作品をどう読んだかについて綴った一冊です。タイトルを見ると、一見ファンに向けて書かれた本のように見えますが、多くの人を松本清張の世界へいざなう入門書になっています。本書で取り上げている27の作品は、「点と線」「砂の器」など言わずと知れた名作ばかりです。作品のアイデアはどのように生まれたのか。嘘を描いた真意とは。小説を片手に著者の推理を検証してみませんか。

『生まれてすみません：太宰治一五〇の言葉』

山口智司著、PHP研究所 所蔵:穂谷図書館4F一般図書



「生まれて、すみません」。そう言った太宰治が生まれてから、ちょうど100年が経ちました。本書では、人間のごまかしを身逃がさず、「世間の本当」を書き続けた太宰が残した名言・名文を多く集めました。人間関係、恋愛、生活……。生きづらさを抱える、全ての人に贈る1冊です。

『シェヘラザードの憂愁 — アラビアン・ナイト後日譚』

ナギブ・マフフーズ著、鳩治夫訳 河出書房新社
所蔵:中宮図書館3F一般図書、穂谷図書館 4F一般図書



アラブ人作家で初のノーベル文学賞を受賞した著者の晩年の代表的小説。『アラビアン・ナイト』が終わった翌日から始まる形をとっており、その「続編」といえる作品になっています。奇想天外で不思議なファンタジーと現代的な人間の苦悩を巧みに織り込んだ豊穡な世界を楽しみませんか。

新刊 本学教員の訳した本

『ジェイン・オースティンの生涯 — 小説家の視座から』

キャロル・シールズ著 監訳:内田能嗣、惣谷美智子
訳:渡千鶴子、柏原和子、前田淑江ほか
世界思想社/2,300円+税

図書館からのお知らせ

■夏休み特別貸出

特別貸出開始日:7月16日(木)
ただし、貸出期間が1週間の図書(就職・検定・指定図書および教材など)は7月23日(木)から
貸出冊数:【図書館】7冊まで
【AVライブラリー】2点まで
【穂谷コントロールルーム】6点まで
返却期限日:すべて10月1日(木)

■夏休み期間中の開館時間

中宮、穂谷とも
月~金は9時から16時45分
土は9時から15時45分

■夏休み期間中の休館日

【中宮】
8月8日(土)、12日(水)~17日(月)、
22日(土)、31日(月)
【穂谷】
8月4日(火)、8日(土)、12日(水)~17日(月)、
22日(土)、9月5日(土)
※詳しくは掲示板、ホームページで

旬な人 外大このひと

日本演劇学会の本年度河竹賞に輝いた
外国語学部講師(元教授)

今西 雅章 さん

シエイクスピア研究に打ち込んで半世紀余。「勲章」がまた一つ増えた。博士論文や本学での研究発表などをまとめた著作『シエイクスピア劇の図像学——舞台構図・場面構成・言語表象の視点から——』(2008年5月・彩流社)が「長年の綿密なテキスト読解に加え、図像学研究成果を取り入れた作品」と高く評価され、優れた年間業績として河竹賞が授与された。

6月28日に大阪市立大学で行われた同学会の総会で授賞式があり、今西さんは「シエイクスピアの視覚的なもの・聴覚的なもの——当時の『グローブ座』を念頭に置いて」と題して、記念レクチャー「写真」。「シエイクスピア作品は聴くものだという見方が主流になっているが、視覚的な要素も多い。聴覚と視覚が相乗効果をもって、観客を感動させる」と持論を語った。

2007年の本学博士号(言語文化)取得に続く快挙。現在は本学外国語学部で講師として、「英米文学作品研究」を担当し、シエイクスピア作品を講じている。「授業で取り上げている『リア王』を含め、シエイクスピアの四大悲劇を通じて、現代の政治や社会で起きているさまざまな問題を考えることができる」という。愛欲、親子関係、野心……。こうした人間の表と裏を描いた物語から、学生たちが人間理解を深めてくれれば良いと願っている。

シエイクスピア研究はまだまた、「新書などもっと平易な形式で、シエイクスピアの現代性を問いかける著作を出したい。『現代に生きるシエイクスピア』といったようなテーマでまとめてみたい」と、意欲はますます盛ん。日本の演劇学界で認められたことについて、「日本の古典芸能との比較研究もやってみたい」とも話す。受賞が研究活動の幅を広げる契機になりそうだ。

「この本を出さずにはおかない」。渡嘉敷 日本語を学ぶ外国人が苦手としているのが漢字です。数が多いうえ、形や読み方も複雑だからです。4大学で外国人学生と向き合っている教員5人が「漢字のイラストイメージを使って、らくらく覚えられる」効率的な勉強法を考えようと取り組みました。

「著者5人の関係は」。渡嘉敷 全員、留学生別科の教員、元教員です。坂野永理さん(現岡山大学教授)、池田庸子さん(現茨城大学准教授)、品川恭子さん(現カリフォルニア大学サンタバーバラ校講師)も本学で7、8年前まで教えていました。品川さんとはインターネットの会議システムでやりとりをし、出版までに5年かかりました。

「苦労した点はあることですか」。渡嘉敷・田嶋 漢字の意味に合うイラストをどう描くか、をめぐってよく議論しました。取り上げた初、中級の漢字512のうち、多くは象形文字を参考にしましたが、日々の漢字指導で生まれたアイデアを集め、改良を重ねたものも少なくありません。例えば「困」



視覚からシエイクスピアを研究するうえで、シエイクスピア作品が多く上演されたロンドンのグローブ座に焦点を当てた。16世紀末に建てられた、円筒形のこの劇場、バルコニーがあり、セリ、吊りものを操作する装置もあった。「シエイクスピア劇の図像学」ではこうした点を詳述し、「平面的な舞台ではなく、上下に動くという点で、シエイクスピア作品に見られる運命の上昇・下降を演出するのにもふさわしい舞台だった」という今西さんの視点を展開している。

『KANJI — LOOK AND LEARN』
(The Japan Times / 1,800円+税)
外国語学部教授 渡嘉敷恭子 写真
留学生別科非常勤講師 田嶋 香織 5人

「著者5人の関係は」。渡嘉敷 全員、留学生別科の教員、元教員です。坂野永理さん(現岡山大学教授)、池田庸子さん(現茨城大学准教授)、品川恭子さん(現カリフォルニア大学サンタバーバラ校講師)も本学で7、8年前まで教えていました。品川さんとはインターネットの会議システムでやりとりをし、出版までに5年かかりました。

「苦労した点はあることですか」。渡嘉敷・田嶋 漢字の意味に合うイラストをどう描くか、をめぐってよく議論しました。取り上げた初、中級の漢字512のうち、多くは象形文字を参考にしましたが、日々の漢字指導で生まれたアイデアを集め、改良を重ねたものも少なくありません。例えば「困」

「著者5人の関係は」。渡嘉敷 全員、留学生別科の教員、元教員です。坂野永理さん(現岡山大学教授)、池田庸子さん(現茨城大学准教授)、品川恭子さん(現カリフォルニア大学サンタバーバラ校講師)も本学で7、8年前まで教えていました。品川さんとはインターネットの会議システムでやりとりをし、出版までに5年かかりました。



『ポーポキ、友情って、なに色?』
短大部准教授 奥田 光子



(ポーポキのピースブック2)
文・絵 ロニー・アレキサンダー
(株)エピック/1,429円+税

今まで信じていた価値基準が崩れ、生きるのに不安を感じている現代人。こういう世相だからこそ、童話の世界に浸ってみることで人生の羅針盤が見つかるとも思いません。4月に出版されたばかりの本は、主人公のポーポキ(ハワイ語で猫のこと)が、公園などで体験したことを「友情」をキーワードに、私たちに「友情って、なに色?」と問いかけています。

人間関係に悩まざったとき、周りの人たちとどのように心を通わせたらよいか、わからなくなったとき、好きなペー지를めくってほしいと思います。英語と日本語のロニーさんの文章と可愛いイラストが、疲れを癒してくれます。

ロニーさんは友情の色は一つでなく、いろいろな色で、形もさまざまだといます。心の中にあつて、見えたり見えなかったりするとも話しています。この世には考え方や習慣の違う多くの人がいて、その多様性を受け入れることが大切だと行間ににじませているのではないのでしょうか。

著者はエール大卒で、神戸大学大学院の教授。平和教育の研究、運動をライフワークに活躍しています。ますます多元的になる社会で、人生を豊かにするには「寛容と共生の精神が重要である」ことを改めて気づかせてくれます。外国人と触れ合う機会が多い外大生にはぜひ読んでほしい絵本です。



2008年度中宮、穂谷両学舎 授業評価まとまる

2008年度の授業評価がまとまり、中宮、穂谷両学舎の学部、短大部の教務委員会が公表した。学生の立場から見た本学の「授業白書」で、今後の授業改善に役立てる。詳しい資料と分析結果は図書館学術情報センターで公開している。外国語学部の回答総数は4万5263件、短大部英米語学科は1万8323件、国際言語学部は2万3611件だった。

学生による本学の「授業白書」

外国語学部

中宮学舎 KANSAI GAIDAI UNIVERSITY Nakamiya Campus

【学生の自己評価】

◆専門必修科目

出席率が「8割以上」と回答した学生の割合は1学期が約90%であるのに対し、2学期は約80%と、出席率の低下傾向がみられた。授業への取り組みに関して、予習・復習を十分にする学生の割合や積極的に授業へ取り組んだ学生の割合は、全体では前年度と同程度であった。ただし、科目により、予習・復習を十分にしていまいと回答した学生の割合が最大15%程度になった。学生諸君がより一層積極的に授業へ取り組みることが期待される。

◆専門必修科目

出席率を「8割以上」と回答した学生の割合は1学期86%、2学期84%と、前年度よりわずかであるが減少している。一方、予習・復習の取り

◆専門必修科目

出席率8割以上が1学期86%、2学期84%と、前年度よりわずかであるが減少している。一方、予習・復習の取り

◆専門必修科目

出席率を「8割以上」と回答した学生の割合は1学期86%、2学期84%と、前年度よりわずかであるが減少している。一方、予習・復習の取り

◆専門必修科目

出席率を「8割以上」と回答した学生の割合は1学期86%、2学期84%と、前年度よりわずかであるが減少している。一方、予習・復習の取り

◆専門必修科目

出席率を「8割以上」と回答した学生の割合は1学期86%、2学期84%と、前年度よりわずかであるが減少している。一方、予習・復習の取り

◆専門必修科目

出席率を「8割以上」と回答した学生の割合は1学期86%、2学期84%と、前年度よりわずかであるが減少している。一方、予習・復習の取り

◆専門必修科目

出席率を「8割以上」と回答した学生の割合は1学期86%、2学期84%と、前年度よりわずかであるが減少している。一方、予習・復習の取り

◆専門必修科目

出席率を「8割以上」と回答した学生の割合は1学期86%、2学期84%と、前年度よりわずかであるが減少している。一方、予習・復習の取り

◆専門必修科目

出席率を「8割以上」と回答した学生の割合は1学期86%、2学期84%と、前年度よりわずかであるが減少している。一方、予習・復習の取り

授業評価の質問項目

学生の自己評価

- あなたの出席率は
- 予習・復習を十分にしましたか
- 積極的な態度で授業に取り組んだと思いますか

授業に対する評価

- クラスのサイズは
- 難易度は
- 進度は
- テキスト(または教材)は
- コースシラバスに沿っていましたか
- 内容は有益でしたか
- 説明は明瞭で適切でしたか

教員に対する認識

- レポート、宿題、テスト等を適切に課しましたか
- 十分、準備をして臨んでいると感じましたか
- 熱意を感じましたか
- 授業開始、終了時刻を守っていましたか
- 授業時間外でも質問などに応じてくれましたか
- この授業を他の学生に勧めたいと思いますか
- 総合評価は

出席率と授業への取り組みに差異

を通じて高い出席率を示している。学生の勤勉さの表れであろう。予習・復習についても、「十分した」と答えた学生が、1学期53%、2学期55%で、4年前の1学期41%、2学期37%、前年度が46%と48%であったことを考えると比率は格段に上がっている。予習・復習が学生に少しずつ浸透してきているということであろう。「積極的な態度で授業に取り組んだ」と考えている学生も年平均66%で、前年度の62%、前々年度の58%、3年前の55%という数値と比べると、年を追って確実に上昇していることが分かる。

共通教育科目 資格科目

共通教育科目については出席への意欲低下がやや懸念される。1学期は「9割以上」と回答した学生が60%（前年度70%）にとどまり、これに「8割以上」と答えた学生を合わせると82%（同87%）である。これが2学期になると、「9割以上」と回答した学生が53%、1学期より7ポイント減で、これに「8割以上」と答えた学生を合わせると79%、1学期と比べて3ポイント減となる。1学期と2学期との比較のみならず、前年度と比べても出席への意欲の低下を感じさせる。

一方、スポーツ健康科学は「8割以上」の高出席率が1・2学期85%、84%、資格科目も95%、94%をマークしており、特に問題は見受けられない。特に資格科目については「予復習」や「積極性」といった項目に対しても、好ましい結果が出ている。例えば、1学期で見ると、「予復習を十分にしましたか」については、「そう思う」と「強くそう思う」を合わせた数値が52%（前年度50%）であり、「積極的な態度で取り組んだか」については、「そう思う」と「強くそう思う」を合わせると66%（同65%）となっている。

ずれも前年度と比べて若干ではあるが改善しており、資格取得への積極性を感ぜさせる。

一方、共通科目について肯定的な回答は「予復・復習」が37%、「積極性」が55%であり（いずれも1学期）、前年度とほとんど変化がない。出席率とあわせて、これらの数値の向上を期待したいものである。

IES/ESL

出席率に関する質問に「9割以上」「8割程度」と答えた学生が、1・2学期ともに90%を超えた。「積極的に授業に取り組んだか」には、80%以上の学生が「強くそう思う」「そう思う」と回答しており、学生の授業への関心の高さを示している。一方ESLに関しても、出席率では、1・2学期ともに90%前後の学生が「9割以上」「8割程度」と回答した。

また「積極的に授業に取り組んだか」

は、1・2学期ともに80%前後の学生が「強くそう思う」「そう思う」と回答した。

CPE

1学期から2学期への変化に注目すると、復習をしたかどうかの質問に対して、「そう思う」と「強くそう思う」を合わせた数値が82%から73%に大きく落ちてきている。これは、「授業への積極的態度」において、上位2項目を合わせた数値が75%から71%に落ちていることに表れているように、「要領よくこなさう」としていることが見てとれるのではないだろうか。9割以上出席した者の比率が83%から68%に落ちて、80%や70%の出席率が増えているのがそれを如実に物語っている。学生の方も自覚が必要であるし、教員も2学期こそ、厳しく、また魅力のある授業を展開する必要があるのである。

【授業に対する評価】

◆英米語学科

◆専門必修科目
クラスサイズに対する回答の約90%が、「適当」「やや適当」であったことが

ら、学生は概ねクラスサイズに満足していると考えられる。また、その他の回答から多くの学生がクラスの内容にも満足していることがうかがえる。クラスの難易度に対する回答の約80%は「適切」「少し難しかった」であった。前年度は「易しかった」がかなり易しかった」と回答した学生数が25%を上回ったが、20年度は20%程度に留まったことが評価できる。クラスの進度に対する回答の約80%は「適切」であった。そして、授業の内容に対して「有益だった」と「とても有益だった」の回答が約80%と前年度を若干上回るが上回ったことが評価できる。今後も、より一層充実した授業が期待される。

◆専門必修科目

クラスサイズについて、75%の学生がおおむね適切であると答えている。授業の難易度について、「適切」と感じた学生が51%であるのに対し、難しかった、またはやや難しかったと考える学生が合わせて44%存在している。しかし、講義を受けたことを有益と考えている学生は75%に上っており、「有益だった」とも有益だったの合計、感覚的な難易度の判断に関わらず一定の教育効果を学生の側も認めているといえる。また、進度、教員の説明の分かりやすさ、「教員の準備」「熱意」についても8割を超える学生がおおむね肯定的に評価しており、多くの教員による努力の成果がうかがえる。

◆スペイン語学科

◆専門必修科目
クラスサイズについては「適当」「やや適当」を合わせて1学期81%、2学期85%であり、前年度と同様、適正サイズが維持されているといえる。授業の難易度は、「適切」が1学期38%、2学期42%に対し、「少し難しかった」が40%と39%で、前年度とほとんど変化がない。一方、教員の「常にわかりやすい説明」は1学期36%と2学期40%、「だいたいわかりやすい説明」が39%と38%である。「常にわかりやすい説明」と感じる学生が前年度より1学期8ポイント、2学期9ポイントと大幅に増加してお

学生へのメッセージ

分析を終えて

外国語学部教務部長・学長 谷本 義高



将来のキャリアを見据えて学習計画を立てよ

将来はA会社に就職したい、B業界を志望している、英語を生かした職に就きたい……。一人ひとりが様々な希望を胸に、日々勉学にいそしんでいるはずだ。自らの願望や進路が定まらない者もいるであろうが、少なくとも外国語を不自由なく使いこなす能力を身につけることや留学することは、みなさん共通の「自立」と「自律」にかかっている。

どんなに小さい希望であつてもよい。その達成に向けた複数年にまたがる学習計画を自ら作成し、実行し、ちよつとだけストイックな学生生活を送ることが重要である。夢の実現にまた一歩近づかずだ。

大学生になったら、アルバイトをして、お金を貯めて、サークルに入って、ステディーを見つけて……。などという「大学最後の楽園説」に与するな。今が学ぶことのできる最大の、しかも最後のチャンスである。出身ブランド大学名で人生が決まるという考え方は古すぎる。人生は己が切り開け。

常に目的意識を持ち自立して主体的に学び続ける、という「大学生自立説」に立つことを願う。授業に出席するだけという受け身な態度では、語学力の習得という目標を達成することはできない。授業外における自身のアレンジメントを取り組むが不可欠である。さらに、習得した語学力を使いこなすためには、共通教育科目などの語学以外の授業を活用しなければならぬ。日本語を用いて表現、説明できないことが、外国語を学ぶだけで可能になることはない。

夢や目標に明確性が備わるほど、一方的に強制されるだけの勉強では満足できなくなるであろう。授業は、教えてもらう場ではなく、自ら欲する知識や技術、内容を渉猟する場と化すはずである。そのためには、授業における各自の問題意識を明確にするとともに、教員と学生の双方が十二分に準備を行ってから授業に臨む必要がある。

目的意識を持ち、自立して主体的に学べ。夢の実現のために、今をがんばれ！

り、多くの教員の努力がうかがえる。

◇専門選択科目

難易度、進度に関して、「適当」「適切」と答えた学生は、年平均で、難易度49%、進度77%になっており、前年度の49%、75%とほとんど変化はない。「授業の有益性」「説明の分かり易さ」に関しても、肯定的な回答はともに年平均79%で、前年度の年平均78%、80%とほぼ同じだが、ともに66%であった4年前に比べると、授業内容が改善傾向にあるのは歴然としている。この数値が、授業のレベルを落とすことで得られたものではないことを願う。

共通教育科目 資格科目

クラスサイズについては、資格科目においては「大きすぎる」と「大きい」を合わせた数値が9%で前年度と変化はない(前々年度は15%)。共通教育科目については23%が「大きすぎる」「大きい」と答えており、前年度(25%)、前々

年度(23%)の数値からすると、このあたりで「とどまり」を見せているような印象である(いずれも1学期の数値)。

多くの教員の努力がうかがえる

いずれの科目においても60%以上の学生がクラスサイズを「適当」「やや適当」と答えていることから、これら科目におけるクラスサイズの変更は緊急要件ではないように思われるが、共通科目においては資格科目と比べて数値が10ポイント以上上回っている事実には引き続き留意しておきたい。

なお、これら科目全般の「難易度」と「進度」について1学期の数値を見ると、「適切」と答えたのはそれぞれ58%、75%であり、前年度の58%、74%とほぼ同様である。「テキストの活用」「コースシラバスに沿っていたか」「有益だったか」といった項目についても、肯定的な回答が前年度同様70%前後を占めている。

IES/ESL

IES、ESLともにクラスサイズ、

進度、テキストの活用に関する質問に対する回答は、肯定的な評価が目立った。IESでは、クラスサイズに関しては90%以上の学生が「適当」「ほぼ適当」と回答した。進度に関しては、「適切」だけで70%を超えた。さらに「テキストの活用」についても「十分に活用された」「だいたい活用された」を合わせた70%以上になる。授業の難易度を問う質問に関しても、1・2学期とも「適切」と回答した学生が70%を超えた。ESLでは、クラスサイズに関しては、「適当」「やや適当」と回答した学生が80%を超えた。進度については、90%前後の学生が「適切」と回答し、テキストの活用についても70%以上の学生が、「十分に活用された」「だいたい活用された」と回答した。

進捗、テキストの活用に関する質問に対する回答は、肯定的な評価が目立った。IESでは、クラスサイズに関しては90%以上の学生が「適当」「ほぼ適当」と回答した。進度に関しては、「適切」だけで70%を超えた。さらに「テキストの活用」についても「十分に活用された」「だいたい活用された」を合わせた70%以上になる。授業の難易度を問う質問に関しても、1・2学期とも「適切」と回答した学生が70%を超えた。ESLでは、クラスサイズに関しては、「適当」「やや適当」と回答した学生が80%を超えた。進度については、90%前後の学生が「適切」と回答し、テキストの活用についても70%以上の学生が、「十分に活用された」「だいたい活用された」と回答した。

進捗、テキストの活用に関する質問に対する回答は、肯定的な評価が目立った。IESでは、クラスサイズに関しては90%以上の学生が「適当」「ほぼ適当」と回答した。進度に関しては、「適切」だけで70%を超えた。さらに「テキストの活用」についても「十分に活用された」「だいたい活用された」を合わせた70%以上になる。授業の難易度を問う質問に関しても、1・2学期とも「適切」と回答した学生が70%を超えた。ESLでは、クラスサイズに関しては、「適当」「やや適当」と回答した学生が80%を超えた。進度については、90%前後の学生が「適切」と回答し、テキストの活用についても70%以上の学生が、「十分に活用された」「だいたい活用された」と回答した。

進捗、テキストの活用に関する質問に対する回答は、肯定的な評価が目立った。IESでは、クラスサイズに関しては90%以上の学生が「適当」「ほぼ適当」と回答した。進度に関しては、「適切」だけで70%を超えた。さらに「テキストの活用」についても「十分に活用された」「だいたい活用された」を合わせた70%以上になる。授業の難易度を問う質問に関しても、1・2学期とも「適切」と回答した学生が70%を超えた。ESLでは、クラスサイズに関しては、「適当」「やや適当」と回答した学生が80%を超えた。進度については、90%前後の学生が「適切」と回答し、テキストの活用についても70%以上の学生が、「十分に活用された」「だいたい活用された」と回答した。

進捗、テキストの活用に関する質問に対する回答は、肯定的な評価が目立った。IESでは、クラスサイズに関しては90%以上の学生が「適当」「ほぼ適当」と回答した。進度に関しては、「適切」だけで70%を超えた。さらに「テキストの活用」についても「十分に活用された」「だいたい活用された」を合わせた70%以上になる。授業の難易度を問う質問に関しても、1・2学期とも「適切」と回答した学生が70%を超えた。ESLでは、クラスサイズに関しては、「適当」「やや適当」と回答した学生が80%を超えた。進度については、90%前後の学生が「適切」と回答し、テキストの活用についても70%以上の学生が、「十分に活用された」「だいたい活用された」と回答した。

進捗、テキストの活用に関する質問に対する回答は、肯定的な評価が目立った。IESでは、クラスサイズに関しては90%以上の学生が「適当」「ほぼ適当」と回答した。進度に関しては、「適切」だけで70%を超えた。さらに「テキストの活用」についても「十分に活用された」「だいたい活用された」を合わせた70%以上になる。授業の難易度を問う質問に関しても、1・2学期とも「適切」と回答した学生が70%を超えた。ESLでは、クラスサイズに関しては、「適当」「やや適当」と回答した学生が80%を超えた。進度については、90%前後の学生が「適切」と回答し、テキストの活用についても70%以上の学生が、「十分に活用された」「だいたい活用された」と回答した。

進捗、テキストの活用に関する質問に対する回答は、肯定的な評価が目立った。IESでは、クラスサイズに関しては90%以上の学生が「適当」「ほぼ適当」と回答した。進度に関しては、「適切」だけで70%を超えた。さらに「テキストの活用」についても「十分に活用された」「だいたい活用された」を合わせた70%以上になる。授業の難易度を問う質問に関しても、1・2学期とも「適切」と回答した学生が70%を超えた。ESLでは、クラスサイズに関しては、「適当」「やや適当」と回答した学生が80%を超えた。進度については、90%前後の学生が「適切」と回答し、テキストの活用についても70%以上の学生が、「十分に活用された」「だいたい活用された」と回答した。

進捗、テキストの活用に関する質問に対する回答は、肯定的な評価が目立った。IESでは、クラスサイズに関しては90%以上の学生が「適当」「ほぼ適当」と回答した。進度に関しては、「適切」だけで70%を超えた。さらに「テキストの活用」についても「十分に活用された」「だいたい活用された」を合わせた70%以上になる。授業の難易度を問う質問に関しても、1・2学期とも「適切」と回答した学生が70%を超えた。ESLでは、クラスサイズに関しては、「適当」「やや適当」と回答した学生が80%を超えた。進度については、90%前後の学生が「適切」と回答し、テキストの活用についても70%以上の学生が、「十分に活用された」「だいたい活用された」と回答した。

【教員に対する認識】

英米語学科

◇専門必修科目
教員の授業態度に対して、「教員は十分準備をして授業に臨んでいる」「授業に対する教員の熱意を感じた」という回答がそれぞれ約80%であったことから、多くの学生が教員の態度に満足していると考えられる。また、教員の説明に対して、回答の約80%が「わかり易かった」であり、授業を他の学生にすすめたいと思う学生の割合も約70%であった。そして、授業に対する総合評価は、「大変良い」「良い」で、前年度を上回り約80%に上ったことが評価できる。これらの回答からも、多くの学生が教員の授業への取り組みに満足していると考えられる。今後、教員と学生の双方によるより良い授業の構築が期待される。

◇専門必修科目
教員の準備と教員の熱意に関する肯定的な回答は、それぞれ年平均83%と86%で、前年度の83%と86%とまったく同じ数字である。前々年度の80%と81%、3年前の78%と80%、4年前の75%と比較すると、評価は毎年着実に上がってきている。総合評価に対する肯定的な評価の年平均値も、3年前から62%、66%、72%、73%というように、着実に上昇している。授業に取り組む教員の姿勢は、かなり評価されていると考えられる。

◇専門必修科目
教員の準備と教員の熱意に関する肯定的な回答は、それぞれ年平均83%と86%とまったく同じ数字である。前々年度の80%と81%、3年前の78%と80%、4年前の75%と比較すると、評価は毎年着実に上がってきている。総合評価に対する肯定的な評価の年平均値も、3年前から62%、66%、72%、73%というように、着実に上昇している。授業に取り組む教員の姿勢は、かなり評価されていると考えられる。

共通教育科目 資格科目

項目「教員は授業時間外でも質問などに応じてくれたか」について、肯定的な答えは、共通教育科目では1学期が55%(前年度47%)で、さらに2学期になると60%に上昇している。資格科目においても1学期は60%(同57%)で、2学期になると68%に比率が高まっている。いずれも、学期による改善を認めることができると言っても良い変化であろう。

「授業開始、終了時刻を正しく守っていたか」の質問に、肯定的な答えは、共通教育科目で87%(同88%)、資格科目で92%(同93%)、スポーツ健康科学で90%(同92%)であった。これらの数値についても「とどまり」感があるが、少

数でも「時間厳守」の印象を高めたところである。(いずれも1学期の比較)。この他、教員の「熱意(肯定)」「1学期83%、2学期85%」「準備度(肯定)」「1学期81%、2学期84%」さらに「宿題やテストの適切性(適切)」「1学期74%、2学期77%」について、肯定的な回答がいずれも前年度同様70~80%前後で推移している。おおむね良好な回答結果と言えるかもしれないが、その一方、学生の「出席率」にやや懸念される傾向が認められることから、勉学に対する「動機付け」の面から改善の努力が求められる。

IES/ESL

IES/ESLに関しては、教員に対する肯定的な評価が目立ち、否定的な回答はごく少数にとどまった。「教員の熱意を感じたか」「授業開始、終了時刻を守ったか」「授業時間外でも質問に応じたか」の質問に関しては、90%前後の学生が肯定的な回答をしている。また「この授業を他の学生に勧めたいか」に対しては、「強くそう思う」「そう思う」と回答している。

IES/ESLに関しては、教員に対する肯定的な評価が目立ち、否定的な回答はごく少数にとどまった。「教員の熱意を感じたか」「授業開始、終了時刻を守ったか」「授業時間外でも質問に応じたか」の質問に関しては、90%前後の学生が肯定的な回答をしている。また「この授業を他の学生に勧めたいか」に対しては、「強くそう思う」「そう思う」と回答している。

IES/ESLに関しては、教員に対する肯定的な評価が目立ち、否定的な回答はごく少数にとどまった。「教員の熱意を感じたか」「授業開始、終了時刻を守ったか」「授業時間外でも質問に応じたか」の質問に関しては、90%前後の学生が肯定的な回答をしている。また「この授業を他の学生に勧めたいか」に対しては、「強くそう思う」「そう思う」と回答している。

CPE

教員の熱意(上位2項目合計で1学期95%、2学期92%)や授業の準備(1学期93%、2学期86%)において肯定的な回答が高かったが、その割にCPEの総合評価が1学期82%、2学期78%と若干低い。これは、総合評価に「普通」と回答している者が両学期とも15%もいることによる。学生たちは、自分から積極的に参加することにより授業がより楽しくなり、自分の実になるのだという意識を自覚し、教員は、積極性を欠いたこの層の学生たちを鼓舞するよう工夫が必要であろう。

短大部英米語学科

中宮学舎

KANSAI GAI DAI UNIVERSITY Nakamiya Campus

【学生の自己評価】

英米語学科

業参加を促す授業展開が求められる。

◇専門必修科目

出席率「9割以上」が1学期61%、2学期52%で、「8割程度」が1学期21%、2学期23%であった。「予習・復習を十分にしたか」の設問には、「強くそう思う」が1学期11%、2学期12%、「そう思う」が1学期39%、2学期40%であつた。

◇専門選択必修科目・専門選択科目

出席率は「9割以上」「8割程度」を合わせて、1学期81%、2学期76%で、前年度と比べてそれぞれ4ポイントと5ポイントずつ低下している。出席率に関しては、前年度まで80%台を維持してきたことを考えると、授業への出

への回答から、多くの点で前年度と同程度か、または改善が見られる。一方で、出席率の低下への対処として、教員は学期の早いうちから継続して授業出席の重要性を説き、出席が成績に反映する評価方法を強化することが求められる。

総合教育科目

出席率についてはスポーツ健康学以外では8割以上出席した割合が1・2学期でそれぞれ81%、78%である。前年度はそれぞれ86%、81%、前年度は84

予習・復習、積極的姿勢が求められる

た。また、「授業に積極的に取り組んだか」は、「強くそう思う」が、1学期19%、2学期20%で、「そう思う」は、1・2学期ともに49%であった。毎年、高い出席率に比べ、予習復習を十分にし、積極的姿勢で授業に臨む学生の割合が低い。教員は早い時期から、学生に出席率は単なる単位取得要件の一つに過ぎず、予習・復習、積極的姿勢も重要な要件であることを周知徹底させる必要がある。教員も、より一層自学自習や積極的授

業が必須であることの学生の意識の低下が見られる。科目全体での学生への授業出席への意識付けを強化する必要があると考えられる。予習・復習に関する質問への回答は、「強くそう思う」「そう思う」が1学期52%、2学期53%で、前年度と同様の評価である。「積極的に授業に取り組んだか」は、「強くそう思う」「そう思う」が年平均66%で、前年度と比べ授業への積極性が若干向上している。「予習・復習」および「授業態度」

席が必須であることの学生の意識の低下が見られる。科目全体での学生への授業出席への意識付けを強化する必要があると考えられる。予習・復習に関する質問への回答は、「強くそう思う」「そう思う」が1学期52%、2学期53%で、前年度と同様の評価である。「積極的に授業に取り組んだか」は、「強くそう思う」「そう思う」が年平均66%で、前年度と比べ授業への積極性が若干向上している。「予習・復習」および「授業態度」



短大部教務部長・教授 井登 大策

分析を終えて

よりよい授業のために

今年の就職活動が始まった。毎年本学の就職率は高く、素晴らしい結果を残している。しかし、今年度の就職戦線は厳しいものと思われる。昨年度は米国サブプライムローン問題に端を発し、世界は大不況に陥った。日本でも、国内総生産(GDP)の実質成長率が戦後最悪のマイナスとなった。その結果、各企業は今年度の新卒採用人数を大幅に下げ、求人倍率もかなり低くなっている。このような厳しい状況の中で、就職戦線を戦わなければならない。この状況は今年度に限られたものではなく、ここ数年間は続くものと予想される。つまり、現在在籍している外大生全員がこの難題に直面することになるといえる。

復習を十分にいき積極的な姿勢で授業に臨んでいる学生の割合が低いということである。もっと多くの学生が授業に真剣に取り組まなければならない。厳しい就職戦線で勝ち残るためには、今まで以上に充実した授業への取り組みが求められていることを教員と学生双方が再認識する必要がある。自分を最高に輝かせてほしい。そのための鍵は日々の授業にある。充実した授業の中からは知的探究心が生まれる。その探究心が授業をさらに充実させるだけにとどまらず、必ず授業外の学習活動をも拡大させる。そこに、短大部の教育目標として掲げている「確かな英語力」と「豊かな人間力」の養成を達成させるものがあると確信する。将来に備えて自分の持てる力を最大限に輝かせよう!

「自らを輝かせる鍵」は授業

「授業の有益性」実感する学生増える

教員の説明は年間通じて約80%が「わかり易い」と回答

【授業に対する評価】

英米語学科

◇専門必修科目

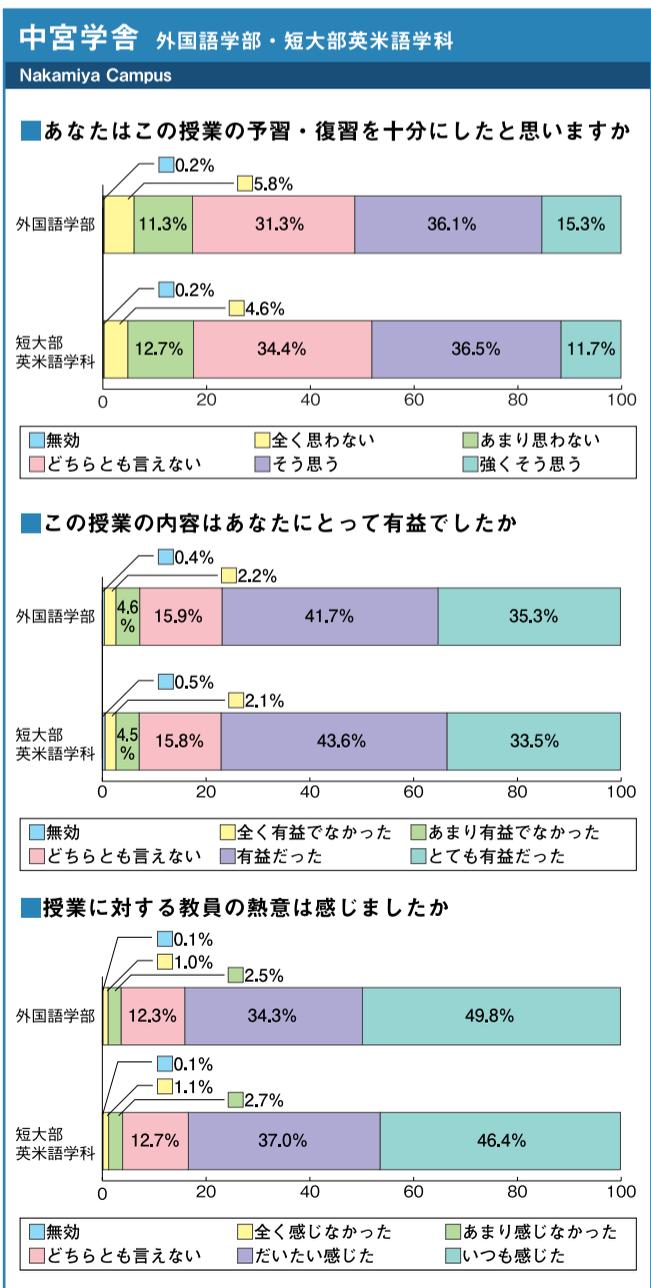
1・2学期それぞれ53%、54%に比べれば多少良くなっている。総じて2学期の方が良いのは、授業に慣れてきたということであろうか。この点、気持ちのゆるまなかつたことは評価できる。スポーツ健康学については出席率が1・2学期平均して71・5%である一方で、「積極的に取り組んだか」という問いに「強くそう思う」「そう思う」が1・2学期平均して83%と他の総合教育科目と対照的なのは、科目の特質によるものであろうか。

IES/ESL

出席率については、通年で「9割以上」「8割程度」を合わせてIESが95%、ESLが74%と、ESLが低めであった。また、「予習・復習を十分にしたか」の設問には、「強くそう思う」「そう思う」がIESで80%、ESLで64%であった。また、「授業に積極的に取り組んだか」では、「強くそう思う」「そう思う」がIESで84%、ESLで69%となっている。IESに比べると、ESLクラスの数値が少し見劣りする。今後のさらなる奮起と努力を期待したいところだ。

授業の進度は「適切」「少し速い」が通年で90%台(1学期92%、2学期92%)、難易度についても「適切」「少し難しい」が1・2学期とも85%で、進度、難易度とも前年度とほぼ同様の評価が見られる。その一方で、「かなり速い(または遅い)」が1・2学期とも4%、「かなり難しい(または易しい)」は通年9%(1学期9%、2学期8%)で、依然として学習上何らかの問題を持つ学生の存在が明らかである。授業の有益性に関しては、「とても有益」「有益」が1学期79%、2学期80%で、前年度をそれぞれ3ポイントと1ポイント上回っている。「どちらとも言えない」は1・2学期とも14%で、前年度よりそれぞれ4ポイントと2ポイント改善されたことから、授業に対する有益性を実感している学生が増加していることが見られる。宿題・課題の量に関しては、「適切」が1学期70%、2学期73%で前年度よりそれぞれ3ポイント、7ポイント増であった。前年度同様、1学期から2学期にかけて学生の学習環境への順応性が見られる。教員の授業における説

授業の進度は「適切」「少し速い」が通年で90%台(1学期92%、2学期92%)、難易度についても「適切」「少し難しい」が1・2学期とも85%で、進度、難易度とも前年度とほぼ同様の評価が見られる。その一方で、「かなり速い(または遅い)」が1・2学期とも4%、「かなり難しい(または易しい)」は通年9%(1学期9%、2学期8%)で、依然として学習上何らかの問題を持つ学生の存在が明らかである。授業の有益性に関しては、「とても有益」「有益」が1学期79%、2学期80%で、前年度をそれぞれ3ポイントと1ポイント上回っている。「どちらとも言えない」は1・2学期とも14%で、前年度よりそれぞれ4ポイントと2ポイント改善されたことから、授業に対する有益性を実感している学生が増加していることが見られる。宿題・課題の量に関しては、「適切」が1学期70%、2学期73%で前年度よりそれぞれ3ポイント、7ポイント増であった。前年度同様、1学期から2学期にかけて学生の学習環境への順応性が見られる。教員の授業における説



Course Evaluation

明についても、「いつもわかり易かった」「だいたいわかり易かった」が平均77%で前年度と比べて微増となった。クラスサイズは「適当」「やや適当」が1・2学期平均で74%、テキスト使用度は「十分活用された」「だいたい活用された」が両学期平均78%、さらにシラバスに沿った授業進行度では「いつも沿っていた」「だいたい沿っていた」が両学期平均79%で、前年度よりそれぞれ2ポイント、3ポイント、4ポイント改善された。学生の授業に対する評価は、前年度に比べて全ての点で同様または改善が見られる。これからもさらなる評価向上のために教員の創意工夫が望まれる。

総合教育科目

クラスの難易度については「適切」が1・2学期それぞれ50%、54%で前年度の1・2学期とも49%に比べると2学期でより「適切」が多くなっているというのは、やはりここでも授業への慣れが効いているのであろうか。進捗については「適切」が1・2学期71%、76%と昨年の62%、71%よりも良くなっている。難易度、進度については易しかったり遅かったりするよりも、難し

かったり早かったりすると解答した学生が多いのは例年の通りで、ただこれも1学期より2学期の方が減少している。難易度に関して「難しい」「少し難しい」合わせて1学期43%から2学期39%、進度に関して「すこし速かった」「かなり速かった」合わせて1学期25%から2学期21%。一方授業における教員の説明が「いつもわかり易かった」「だいたいわかり易かった」が1・2学期68%、75%で前年度1・2学期の66%、69%よりよく、さらに「授業の内容が有益だったか」についても「とても有益だった」「有益だった」が1・2学期71%、75%で前年度1・2学期の66%、69%と比べて改善していることは心強い。

IES/ESL

年間を通して、クラスサイズは「適当」「やや適当」がIESで93%、ESLでは100%であった。また、授業の進度はIESで81%、ESLで76%が「適切」としている。一方、難易度は「適切」がIESで1学期51%から2学期58%、ESLでは1学期43%から2学期58%と適切度が改善したようだ。難易度では「かなり難しかった」と「すこし難しかった」を合わせると、IESで1学期40%から2学期34%、ESLでは1学期43%、2学期21%というように、授業が2学期に易しく感じるようになってきている。通常、テキストなどは後になるほど高度になるので、易しく感じてくるのは実力が伸びたからと言えそうだ。また、授業の有益さを問う項目では、「とても有益だった」と「有益だった」が年平均でIESが86%、ESLでは78%であ

教員に対する評価は総じて高い

「約8割の学生が授業におおむね満足している状況がうかがえる。もちろんこれらの結果に甘んじることなく、さらに充実した授業にするように創意工夫が望まれよう。」

「教員に対する認識」
英米語学科
専門必修科目
80%以上の学生が年間を通し、教員の授業に対する熱意を感じ、また教員は十分準備をして授業に望んでいると答える肯定的な回答(「そう思う」「強くそう思う」)が、全学年を通じて、「積極的な態度で授業に取り組んだと思うか」への肯定的な回答(「そう思う」「強くそう思う」)を大きく下回る傾向が見られる。「積極的に授業に取り組んだと思う」学生は学年を通じて61%、68%だが、「予習、復習を十分にしたと思う」学生の割合はそれより低く、その差は1年

「いつも応じた」「大体応じた」が1学期70%、2学期69%で前年度より若干改善された。一方「質問したことがない」との回答が1・2学期とも20%台であり、学生の約2割が授業外で質問していない結果が出た。授業内外での双方のコミュニケーション強化のため教員の環境作りが望まれる結果となった。

総合教育科目

「教員は充分準備をして授業に臨んでいる」と感じましたか」について「いつも感じた」「だいたい感じた」が1・2学期でそれぞれ76%、83%と前年度1・2学期の77%、80%と比べると1学期はほぼ同じ、2学期は若干良くなっている。授業に対する教員の熱意を感じたかどうかについて「いつも感じた」「だいたい感じた」が1・2学期78%、83%で、ほぼ昨年と同じである。どちらにせよ1学期に比べて2学期に多少評価が高くなっているのは、他の項目とも共通している。「授業開始、終了時刻が守

国際言語学部

穂谷 幸彦

KANSAI GAIDAI UNIVERSITY Hotani Campus

【学生の自己評価】

国際言語コミュニケーション学科
コース指定科目(ドイツ語、フランス語、中国語と国際ビジネス関連専門選択科目)

4年生の1学期(85%)を除いて、全学年で90%を超える学生が「7割以上」出席しており、出席率は総じて高いといえる。ただ8割以上出席した学生の比率をみると、1年生1学期の89%を筆頭に、学年を追うごとに低くなり、4年生1学期で最低の59%を示している。また、4年生を除く各学年で、1学期より2学期の出席率が4〜6ポイント低下している。

コース指定科目のうち、とりわけ第2外国語科目は、授業への出席が必要最低条件であるが、「9割以上」の出席

が見られるのは、1年生の1学期が最高で74%、2学期が66%、2年生は1学期で62%、2学期で53%である。3年生では1学期で50%、2学期は41%まで落ち込み、4年生は1学期が最も低い

学生の意識改革が重要な課題

31%で、2学期でやっと42%に戻っている。4年生については、例年通り就職活動の影響が顕著であることに変わりはないが、近年その影響が3年生の2学期にまで及んできていることは看過できない。

学習への取り組みについては「予習、復習を十分にしたと思うか」との質問へ

生1学期で18ポイント、2学期では11ポイントとなっている。2年生1学期では8ポイント差と若干縮まるものの、2学期は11ポイント、3年生の1学期は13ポイント、2学期15ポイント、4年生1学期で18ポイント、2学期で15ポイントと学年が高くなるにつれ、その差は縮まるどころか再び開いてくる。

学生の意識改革が重要な課題

「授業の理解度」に大いに影響するということも十分に意識する必要がある。教室内外での学習効果を最大限に高めるためにも、学年を問わず、学生の意識改革や自律的学習への指導が重要な課題となる。

「授業に積極的に取り組む」ためには、教室内外での学習態度もさることながら、教室外の自主的取り組みが前提条件となる。また、その取り組みの如何が、

「授業の理解度」に大いに影響するということも十分に意識する必要がある。教室内外での学習効果を最大限に高めるためにも、学年を問わず、学生の意識改革や自律的学習への指導が重要な課題となる。

【授業に対する評価】

コース指定以外の科目は、コース指定科目あるいは国際言語学部専門科目との関連性だけでなく、授業形態、履修者数等においても、極めて多岐にわたる。それらの科目をひとまとめにし、評価の平均値をみると、学生の自己評価はかなり高く、よく出席して、それなりに課題をこなしているとみえる。ただ、学生の自己評価が教員の学生評価と合致していないなら、学生の自己評価が「いささか甘い」という可能性も否定できない。

コース指定以外の科目

全学年2学期平均で、授業に「8割以上」出席したと回答した学生は84%、そ

「授業の理解度」に大いに影響するということも十分に意識する必要がある。教室内外での学習効果を最大限に高めるためにも、学年を問わず、学生の意識改革や自律的学習への指導が重要な課題となる。

総合教育科目

「教員は充分準備をして授業に臨んでいる」と感じましたか」について「いつも感じた」「だいたい感じた」が1・2学期でそれぞれ76%、83%と前年度1・2学期の77%、80%と比べると1学期はほぼ同じ、2学期は若干良くなっている。授業に対する教員の熱意を感じたかどうかについて「いつも感じた」「だいたい感じた」が1・2学期78%、83%で、ほぼ昨年と同じである。どちらにせよ1学期に比べて2学期に多少評価が高くなっているのは、他の項目とも共通している。「授業開始、終了時刻が守

IES/ESL

教員の授業に対する準備や熱意を問う設問では、肯定的な回答がIESでは90%、ESLでは88%を占めている。また「教員が授業開始・終了時刻を守ったか」では肯定的な回答がIESで95%、ESLで97%、「授業時間外でも質問に応じたか」ではIESで85%、ESLで80%となっている。「この授業を他の学生にすすめたか」や、「この授業の総合評価は」では肯定的な回答がIESで85%、ESLでは72%を占めた。若干ESLクラスでの結果がいくつかの項目で低めであるが、IES・ESLとも大部分の学生が教員の授業に対する姿勢を高く評価しているようだ。

「授業に積極的に取り組む」ためには、教室内外での学習態度もさることながら、教室外の自主的取り組みが前提条件となる。また、その取り組みの如何が、

「授業に積極的に取り組む」ためには、教室内外での学習態度もさることながら、教室外の自主的取り組みが前提条件となる。また、その取り組みの如何が、

【授業に対する評価】

コース指定科目
クラスサイズについては、いずれの学年においても8割の学生が「適当」と回答し、コース指定科目における少人数クラスが評価されていると考えられる。

〔14面へ続く〕

分析を終えて

——よりよい授業のために

国際言語学部教務委員・教授 三輪 雅人



例年授業に対する総合的な評価はおおむね高いのに、「この授業を他の学生にすすめたいと思うか」と問うと、評価は必ず数ポイント低くなる。どの授業、どの学年・学期でも、同じ傾向が見られる。なぜこのような現象が起こるのか、いつも不思議に思っていた。

学生諸君と懇談する機会があることに、この疑問を投げかけてみた。すると、どうやら「自分にとっては非常に有意義だった授業でも、出欠調査やレポート提出が厳しくて大変だったから、他人に安易にすすめられない」という判断が影響しているらしい、ということが分かってきた。つまり総合評価には「授業の質」そのものが反映されているが、オススメ度には「単位の取りやすさ」も加味されている、というわけである。

そういうことだったのか。だったらその辺りの事情や判断の基準を、是非ともアンケートの

「評価基準」自由記述欄にも記入を

自由記述欄に書いてもらいたいものだ。

授業評価のアンケート結果は数値として処理される。同じ「すすめたいとは思わない」でも理由は千差万別のはずだが、それは数字からは読み取れない。その漏れ落ちた情報を補うのが自由記述なのだ。数値の陰に隠れた学生諸君の意図が明確になれば、授業担当者は対処しやすい。

例えば「単位の取りやすさ」云々について、私なら学生諸君に次のように説諭するであろう。

良心的な教師は「分かりやすい授業をしよう」と日々心を砕くが、「学生に楽をさせよう」とか「テキストに単位をやろう」とは考えない。授業の満足度を上げるためにハードルを下げ、授業の質を落とし、学生に迎合するのであれば、それは本末転倒。教育の敗北に他ならない、と。

教員の授業運営のあり方についても、学生の満足度は総じて高い。授業の進度は7割が「適当」とし、テキストの活用、シラバスとの整合性に関しても8割の学生が満足している。さらに、授業を「有益だった」と評価する学生は8割(1年83%、2年83%、3年81%、4年89%)を超え、教員の説明を「わかり易かった」とする者も8割(1年75%、2年77%、3年82%、4年89%)前後にのぼっている。

いずれの結果も、前年度と比較すると、より一層の改善がみられ、全学的なFD活動の成果とも考えられる。

授業の難易度に関しては、「適切」とする学生(1年44%、2年50%、3年53%、4年55%)と、「かなり難しい」「少し難しい」とする学生の割合(1年51%、2年46%、3年41%、4年40%)がほぼ拮抗し、課題の量についても「多い」と感じる学生が2割程度存在する。

大学教育の質を維持し、学生の学習意欲を刺激するためにも、授業において適度の負荷をかけ、ハードルを少し高めに設定することは大いに有効である。ただ、授業が「難しい」、課題が「多い」と感じる学生の割合が、1年生・2年生では各学期とも前年度を上回って

いる。20年度に限った現象であればよいが、次年度以降も同様の傾向がみられるなら、何らかの対策を講じる必要があるだろう。

コース指定以外の科目

クラスサイズについては、「ほぼ適当」が1学期71%、2学期78%だった。これに対し、「大きい・大きすぎる」は1学期13%、2学期9%となっており、授業に対する評価(8項目)の中で、不満足の原因を表す値としては一番高い。科目内容に見合う適性規模を図る努力が求められるが、教員の創意工夫次第で、多人数クラスにおける満足度を高めることは十分可能である。本学FD授業研究・ワークショップで紹介された諸事例が参考になる。

難易度では、「適切」(1学期60%、2学期62%)、「少し難しい」(1学期24%、2学期24%)。進度は「適切」(1学期78%、2学期80%)、「少し速い」(1学期13%、2学期13%)。この二つの項目については、極めて高い肯定的評価を得ており、受講生の理解度を見極めて、程よい負荷をかけている様子が見えてくる。教材活用度は、「十分」(1学期40%、2

学期44%)、「だいたい」(1学期31%、2学期31%)。授業に対する評価(8項目)のうち、最も肯定度が低い。教材は教授者が熟慮の上、選択・作成されているはずであるが、今一度、科目到達目標を確実に、「教材を十分使い切る」手立てに一段の配慮があるだろうか。

シラバスに沿っているかでは、「いいも・だいたい」(1学期77%、2学期81%)との答えが多い。毎回の授業で進度の調整を余儀なくされることが多いが、シラバス設計は念入りに行われている

「いつも感じた」「だいたい感じた」が1学期、2学期とも83%、2年生は1学期85%、2学期が83%だった。3年、4年と学年が上がるにつれて肯定的評価の割合が増え、大学生活最後の学期となる4年生2学期では実に92%が高い評価を与えている。「教員の熱意」など他の質問にも同じ傾向が見られ、多くの学生が教員に対して厚い信頼をおいているようだ。

「この授業を他の学生にすすめたい」と答えた学生は、1・2年生で70%前後、3年生は1学期71%、2学期79%、4年生は1学期80%、2学期85%だった。「この授業に対する総合評価」は、「大

変良い」「良い」が1年生1学期で72%、4年生2学期は87%であった。やはり学年が上がるにつれて、高評価の割合が多くなっていくが、これは学習が進むに従って自らの目標や課題が明確になり、興味・関心を持って主体的・積極的に授業に臨んだ結果、高度な理解と大きな感動を得られた、ということの証明である。

「教員は時間外でも質問に応じたか」には70%以上が「応じた」としている。一方、各学年とも20%から25%の学生が

「教員は準備をして授業に臨んでいると感じたか」「授業に対する教員の熱意を感じたか」という質問に対し、1学期において「いつも感じた」「だいたい感じた」と回答した学生は8割(それぞれ84%・85%)を超えた。また「授業開始、終了時刻を正しく守っていた」には、「いつも」「だいたい」がほぼ9割を占めている。これらの数字は、2学期の授業についてもほぼ同水準だった。

「教員は授業時間外でも質問などに応じたか」という設問には、「いつも応じた」「だいたい応じた」がおよそ3分の2に上る。「質問をしたことがない」学生も4分の1弱(1学期25%、2学期22%)みられる。前年度より若干減少しているとはいえ、教員は単に学生の質問に答えるだけでなく、質問しやすい雰囲気をつくりだすことにも努めるべきだろう。

「この授業を他の学生にすすめたいか」という質問に対しては、「強くそう思う」「そう思う」と回答した学生は、1学期67%、2学期72%であった。「この授業に対する総合評価」には、「大変良い」「良い」が1学期71%、2学期は75%だった。前年度より若干向上し、コース指定科目と比較しても遜色ない水準に達している。

コース指定以外の科目は、専攻の必修科目外でもあることから、学生の熱意や意欲を上げて、総合的な評価の高さにつながるには教員の不断の努力が求められる。同時に、授業シラバスをさらに充実させるなどして、学生の期待と授業内容のミスマッチを避ける工夫をすることも重要であろう。

多くが教員に対して厚い信頼

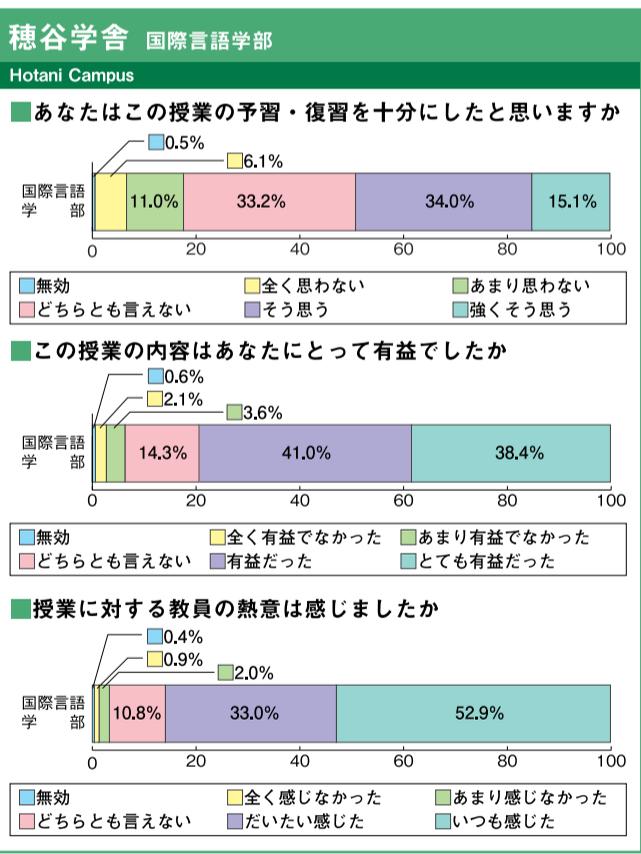
【教員に対する認識】

コース指定科目

「教員は十分準備をして授業に臨んでいると感じたか」との問いに、1年生は

「質問をしたことがない」と答えている。「聞きそびれたので、この訳もわからない」という質問に対しては、「強くそう思う」「そう思う」と回答した学生は、1学期67%、2学期72%であった。「この授業に対する総合評価」には、「大変良い」「良い」が1学期71%、2学期は75%だった。前年度より若干向上し、

「教員は準備をして授業に臨んでいると感じたか」「授業に対する教員の熱意を感じたか」という質問に対し、1学期において「いつも感じた」「だいたい感じた」と回答した学生は8割(それぞれ84%・85%)を超えた。また「授業開始、終了時刻を正しく守っていた」には、「いつも」「だいたい」がほぼ9割を占めている。これらの数字は、2学期の授業についてもほぼ同水準だった。



授業評価分析担当教員

平成20年度授業評価分析担当教員は次のみなさんです。

【外国語学部】

井尻直志教授、玉井久之教授、和佐敦子教授、魚住真司准教授、小谷克則准教授、吉留公太講師(以上教務委員)、辻井宗明教授

【国際言語学部】

神田修悦教授(教務部長)、江平英一教授、林登美子教授、三輪雅人教授、池田遊魚准教授、池本大輔講師(以上教務委員)

【短期大学部】

浅田忠久准教授、笠井正隆准教授、四宮康恵准教授、平田一郎准教授(以上教務委員)

20年度決算
21年度予算

大学の収支内容を発表

決算は財政の健全性を十分に確保

■資金収支予算書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで (単位:円)

収入の部	
科目	予算
学生生徒等納付金収入	13,650,000,000
手数料収入	410,000,000
寄付金収入	3,000,000
補助金収入	601,000,000
資産運用収入	730,000,000
事業収入	5,000,000
雑収入	105,000,000
借入金等収入	0
前受金収入	7,300,000,000
その他の収入	2,569,025,222
資金収入調整勘定	△8,422,551,850
前年度繰越支払資金	14,465,766,116
収入の部合計	31,416,239,488

支出の部	
科目	予算
人件費支出	4,153,000,000
教育研究経費支出	2,720,000,000
管理経費支出	960,000,000
借入金等利息支出	4,750,000
借入金等返済支出	100,000,000
施設関係支出	2,070,000,000
設備関係支出	580,000,000
資産運用支出	8,500,000,000
その他の支出	569,841,529
予備費	300,000,000
資金支出調整勘定	△59,896,123
次年度繰越支払資金	11,518,544,082
支出の部合計	31,416,239,488

この資金収支予算書は、学校法人会計基準(昭和46年4月1日文部省令第18号)に従い作成したもので、補助金交付の観点からの表示区分になっています。



①学納金収入
20年度の学生実員は1万3267人と前年度に比べて57人減員となり、全体の学納金収入は前年度に比べて約25%

1 20年度資金収支計算書の
主要科目の説明(単位:百万円)

学納金は140億円
予算比上回る

②手数料収入
20年度の手数料収入は4億8百万円で、前年度に比べて9百万円減少した。そのうち入学検定料収入は3億79百万円、前年度に比べて13百万円減少であった。

③補助金収入
本学に対する20年度私立大学等経常費補助金は一般補助と特別補助を合わせて6億26百万円であった。これに、現

大学は、平成20年度決算にかかる資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表並びに平成21年度の資金収支予算書について別表のとおり発表した。
20年度決算は監事及び公認会計士の監査を受け、評議員会の意見を聴き、理事会で決定したものである。
20年度の大学の収容定員は、大学院88人、学部8850人、短大部2450人、合計1万1388人と前年と比べて50人の減員となった。
収入は、学納金収入が予算比増加、また運用利回りの上昇等による資産運用収入の増加があり、予算比増加となった。
支出は、穂谷国際交流セミナーハウスの新築などがあつたが、経費の増勢を経営努力でカバーしたことにより、予算比減少となった。
この結果、財政の健全性を十分に確保した決算となった。

■資金収支計算書 平成20年4月1日から平成21年3月31日まで (単位:円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	13,860,000,000	14,001,160,448	△141,160,448
手数料収入	410,000,000	408,140,522	1,859,478
寄付金収入	3,000,000	3,300,000	△300,000
補助金収入	680,000,000	674,841,314	5,158,686
国庫補助金収入	679,000,000	673,568,000	5,432,000
地方公共団体補助金収入	1,000,000	1,273,314	△273,314
その他補助金収入	0	0	0
資産運用収入	620,000,000	740,685,286	△120,685,286
資産売却収入	0	1,785,000	△1,785,000
事業収入	5,000,000	5,418,200	△418,200
雑収入	155,000,000	173,119,377	△18,119,377
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	7,520,000,000	8,372,551,850	△852,551,850
その他の収入	552,019,213	510,979,671	41,039,542
資金収入調整勘定	△8,382,977,750	△8,396,802,972	13,825,222
前年度繰越支払資金	14,184,905,543	14,184,905,543	0
収入の部合計	29,606,947,006	30,680,084,239	△1,073,137,233

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	4,170,000,000	4,169,264,706	735,294
教育研究経費支出	2,641,000,000	2,470,980,235	170,019,765
管理経費支出	937,000,000	860,338,668	76,661,332
借入金等利息支出	6,650,000	6,650,000	0
借入金等返済支出	100,000,000	100,000,000	0
施設関係支出	604,000,000	443,142,860	160,857,140
設備関係支出	688,000,000	237,021,743	450,978,257
資産運用支出	7,500,000,000	7,500,000,000	0
その他の支出	525,915,571	527,011,694	△1,096,123
予備費	200,000,000	200,000,000	0
資金支出調整勘定	△51,902,012	△100,091,783	48,189,771
次年度繰越支払資金	12,286,283,447	14,465,766,116	△2,179,482,669
支出の部合計	29,606,947,006	30,680,084,239	△1,073,137,233

この資金収支計算書は、学校法人会計基準(昭和46年4月1日文部省令第18号)に従い作成したもので、補助金交付の観点からの表示区分になっています。

20年度 教育GP採択などで補助金収入増

推進等補助金43百万円、私学研修福祉会からの利子助成3百万円、私立大学研究設備整備費補助金2百万円を加え、合計は6億75百万円となった。特別補助の交付額は2億50百万円で、の補助金1百万円があり、補助金収入は6億74百万円となった。これは前年度に比べて57百万円の増加である。このほかに大阪府から

④資産運用収入
低金利時代が続いているが、運用資産の増加、金利の若干の上昇、運用方法の見直しにより、資産運用収入は7億41百万円となり、前年度に比べて1億84百万円の増加となった。また、経済困難者に対し学業継続を支援する制度で、新たに奨学金基金から13百万円の収入があり同額を奨学金として支給した。

⑤人件費支出
人件費支出は教職員組織の拡充等で当初予算(4億90百万円)を超え予備費80百万円を使用、41億69百万円となった。わが国の景気動向、民間主要企業の給与実績、私学のおかれている立場等

〈16面へ続く〉

中宮、穂谷両学舎学友会 21年度予算、20年度決算報告

中宮、穂谷両学舎の学友会の平成20年度決算報告、21年度の予算がまとまり、それぞれ4月と6月の教授会で承認された。概要は以下の通り。詳細はホームページ上の次のURLで公開している。
http://www.kansai-gaidai.ac.jp/img/pdf/H21gakuyu_financial.pdf

■学友会平成20年度決算報告書 (単位:円)

中宮学舎			
	収入	支出	次年度繰越金
学生三団体	16,595,371	13,317,758	3,277,613
体育会	28,799,439	28,725,292	74,147
文化会	19,893,909	16,163,714	3,730,195
学生会	8,449,822	7,233,486	1,216,336
合計	73,738,541	65,440,250	8,298,291

穂谷学舎			
	収入	支出	次年度繰越金
体育会	18,297,708	11,807,103	6,490,605
文化会	12,020,899	6,700,187	5,320,712
学生会	13,045,438	5,703,899	7,341,539
合計	43,364,045	24,211,189	19,152,856

■学友会平成21年度予算 (単位:円)

中宮学舎	
	予算額
学生三団体	19,932,749
体育会	30,025,147
文化会	22,538,195
学生会	9,300,336
合計	81,796,427

穂谷学舎	
	予算額
体育会	11,591,000
文化会	6,341,500
学生会	5,720,000
合計	23,652,500

学生本意の「教育環境の整備・充実」を推進

（15面から続く）
 いろいろな要因を充分検討し、社会的整合性の見地に立って、安定した給与水準に努めた。

⑥教育研究経費支出

教育研究経費支出は24億71百万円であり、システム開発費や奨学費等の増加から、前年度に比べて3億16百万円の増加となった。

⑦施設・設備関係支出

穂谷学舎改装工事や穂谷国際交流センターハウス新築等による施設関係支出や教育研究用機器備品の充実を主因とした設備関係支出により、全体で6億80百万円となった。

学生納付金や手数料など 帰属収入は2億円超の増

2 20年度消費収支計算書の 主要科目の説明(単位百万円)

①帰属収入合計

学生納付金、手数料、寄付金(現物寄付金を含む)、補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入の合計である20年度の

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒納付金	13,860,000,000	14,001,160,448	△141,160,448
手数料	410,000,000	408,140,522	1,859,478
寄付金	33,000,000	33,755,851	△755,851
補助金	680,000,000	674,841,314	5,158,686
国庫補助金	679,000,000	673,568,000	5,432,000
地方公共団体補助金	1,000,000	1,273,314	△273,314
その他補助金	0	0	0
資産運用収入	620,000,000	740,685,286	△120,685,286
資産売却差益	0	1,317,750	△1,317,750
事業収入	5,000,000	5,418,200	△418,200
雑収入	155,000,000	173,119,377	△18,119,377
帰属収入合計	15,763,000,000	16,038,438,748	△275,438,748
基本金組入額合計	△6,502,000,000	△5,860,464,094	△641,535,906
消費収入の部合計	9,261,000,000	10,177,974,654	△916,974,654

科目	予算	決算	差異
人件費	4,162,000,000	4,165,596,631	△3,596,631
教育研究経費	3,974,000,000	3,805,863,631	168,136,369
管理経費	1,267,000,000	1,192,740,723	74,259,277
借入金等利息	6,650,000	6,650,000	0
資産処分差額	31,000,000	37,945,798	△6,945,798
徴収不能引当金繰入額	0	0	0
予備費	12,000,000	12,000,000	0
消費支出の部合計	9,452,650,000	9,208,796,783	243,853,217
当年度消費支出超過額	191,650,000		
当年度消費収入超過額		969,177,871	
前年度繰越消費収入超過額	1,304,118,357	1,304,118,357	
当年度消費支出準備金繰入額	0	0	0
当年度消費支出準備金取崩額	0	0	0
基本金取崩額	0	0	
翌年度繰越消費収入超過額	1,112,468,357	2,273,296,228	

この消費収支計算書は、学校法人会計基準(昭和46年4月1日文科省令第18号)に従い作成したもので、補助金交付の観点からの表示区分になっています。

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	146,609,040,083	140,104,426,828	6,504,613,255
有形固定資産	78,863,026,375	79,856,557,539	△993,531,164
土地	42,100,814,330	42,096,788,420	4,025,910
建物	29,026,133,986	29,679,816,123	△653,682,137
その他の有形固定資産	7,736,078,059	8,079,952,996	△343,874,937
その他の固定資産	67,746,013,708	60,247,869,289	7,498,144,419
流動資産	14,544,687,461	14,228,826,768	315,860,693
現金預金	14,465,766,116	14,184,905,543	280,860,573
その他の流動資産	78,921,345	43,921,225	35,000,120
資産の部合計	161,153,727,544	154,333,253,596	6,820,473,948

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	1,096,040,270	1,199,708,345	△103,668,075
長期借入金	200,000,000	300,000,000	△100,000,000
その他の固定負債	896,040,270	899,708,345	△3,668,075
流動負債	9,039,393,379	8,944,893,321	94,500,058
短期借入金	100,000,000	100,000,000	0
その他の流動負債	8,939,393,379	8,844,893,321	94,500,058
負債の部合計	10,135,433,649	10,144,601,666	△9,168,017

科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	96,194,997,667	95,834,533,573	360,464,094
第2号基本金	37,000,000,000	34,500,000,000	2,500,000,000
第3号基本金	15,000,000,000	12,000,000,000	3,000,000,000
第4号基本金	550,000,000	550,000,000	0
基本金の部合計	148,744,997,667	142,884,533,573	5,860,464,094

科目	本年度末	前年度末	増減
当年度消費支出準備金	0	0	0
翌年度繰越消費収入超過額	2,273,296,228	1,304,118,357	969,177,871
消費収支差額の部合計	2,273,296,228	1,304,118,357	969,177,871

科目	本年度末	前年度末	増減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	161,153,727,544	154,333,253,596	6,820,473,948

この貸借対照表は、学校法人会計基準(昭和46年4月1日文科省令第18号)に従い作成したもので、補助金交付の観点からの表示区分になっています。

②基本金組入額
 20年度の基本金組入額は58億60百万円であった。内訳は、1号基本金3億60百万円、中宮学舎の建物整備等のための2号基本金組入額25億円、国際交流充実や特待生奨学等のための3号基本金組入額30億円である。

③消費収入合計
 帰属収入合計から基本金組入額を差し引いた消費収入の合計は10億78百万円となり、前年度と比べて18億66百万円の増加となった。

④消費支出合計
 人件費(退職給与引当金の繰入・取崩後)、教育研究経費(減価償却額を含む)、管理経費(減価償却額を含む)、借入金利息、資産処分差額(教育研究用機器備品等の除却額)の合計である消費支出合計は92億8百万円となり、前年度と比べて4億49百万円の増加となった。

⑤当年度消費収支差額
 消費収入合計から消費支出合計を差し引いた当年度消費収支差額は9億69百万円の収入超過となった。

3 20年度貸借対照表の 主要科目の説明(単位百万円)

①固定資産

有形固定資産は、穂谷学舎の整備と教育研究用機器備品の充実による増加要因を上回る減価償却により、78億63百万円となり、前年と比べて9億94百万円の減少となった。

その他の固定資産は第2号、第3号

②流動負債

主な流動負債である前受金の増加により全体で90億39百万円となった。

③固定負債

約返済に伴う長期借入金の減少と退職給与引当金の若干の増加により10億96百万円となった。

基本金の部合計は148億744百万円となり、前年度に比べて58億60百万円の増加となった。本年度の基本金組入明細は前述の消費収支計算書の基本

21年度 学納金 2億円減の136億円計上

金組入額で記載のとおりである。
 ⑥消費収支差額
 資産の部合計から負債の部合計と基本金の部合計を差し引いた消費収支差額の部は22億73百万円の収入超過となった。

4 21年度資金収支計算書の 主要科目の説明(単位百万円)

①学納金収入

入学金収入は前年度予算比65百万円減少の10億10百万円、授業料収入は前年度予算比1億13百万円減少の93億10百万円を計上し、学納金全体では前年度予算より2億10百万円減少の136億50百万円を計上した。

②手数料収入

入学検定料については前年度予算に比べて8百万円少ない3億82百万円としたが、手数料全体では前年度予算同額の4億10百万円を計上した。

③補助金収入

補助金をとりまく情勢が厳しさを増している実情を踏まえ、前年度予算比79百万円少ない6億1百万円を計上した。

④資産運用収入
 運用資産が増加すること、きめ細か

5 むすび

収入の確保と経費の節減対策が極めて重要な課題であり、特に全学的な経費節約に一段の努力が必要な時代に入ったといえる。本学は、いかに時代が変遷しようとも、学生の目線に立った「教育環境の整備・充実」を推進し、「学生の夢と希望を育てる大学づくり」に邁進していく方針である。

平成17年4月1日より施行された改正私立学校法の趣旨に則り、平成20年度決算にかかわる財務情報をインターネットのホームページに掲載しますのてご覧ください。(総務部)

編集後記

今回の通信は「授業評価」との合併号。学生諸君による2008年度の授業評価を5ページにわたって特集しています。白書にみる外大生の平均像は「出席率もよく、いたって真面目」でも、授業での質問頻度など積極性には、いささか課題が残るようです。4、5面の「ひと燦々」は、穂谷の群像。オープンキャンパスでも活躍した「イベント系投資部」のメンバーは、「何でも見てやろう」の野次馬精神とか。好奇心とは、奇を好むココロ。面白がって、人生を豊かにしてほしいものです。(中)